

平成22年度 環境目的及び目標 達成状況一覧表(上田地域)

環境基本計画基本目標			安全で安全に暮らせるまち			空気や水、土などが汚染されず、安全で健康かつ快適に過ごしていけるまちを目指します。									
環 境 保 全 項 目			さわやかな空気と静けさを確保する			自動車走行に伴う大気汚染や騒音・振動に関する対策を継続的に進めるとともに、一般家庭での野焼きの低減や事業所等からの大気汚染や騒音・振動の防止などにより、さわやかな空気と静かな暮らしの確保に努めます。									
環境基本計画	№	事務事業名	環境目的	環境目標	今年度の事業	効果を計る指標 (どの水準まで)	実績			H22目標	評価	平成22年度 総括	改善すべき課題	市民等からの意見	担当課
							H20	H21	H22						
1-1	23	一般地域における騒音調査及び測定	騒音・振動・悪臭の防止	一般地域の測定定点による定期的な観測により、環境基準の類型ごとに達成率を算出し、監視します。 (目標:平成23年度 100%)	一般環境について、市内11地点の騒音を調査測定し、騒音の状況を調査する。	測定定点11地点を秋以降に実施する。	調査地点数 11 環境基準達成率％(昼間) 90.9 環境基準達成率％(夜間) 90.9	調査地点数 11 環境基準達成率％(昼間) 100 環境基準達成率％(夜間) 83.3	定期的な観測による騒音防止の監視	定期的な観測による騒音防止の監視	◎	一般環境について、市内11地点の騒音調査を実施しました。この結果は、環境レポート等で公表します。			生活環境課
1-1	23	道路交通騒音調査及び測定	騒音・振動・悪臭の防止	道路に面する地域の測定定点による定期的な観測により、平成17年度導入した面的評価システムを用いて、個々の住宅すべての騒音推定値により環境基準達成度を算出し、監視します。(平成23年度 100%)	継続実施している道路に面する地域の騒音調査を実施する。	100%実施	測定地点数 7	測定地点数 7	定期的な観測による騒音防止の監視	定期的な観測による騒音防止の監視	◎	予定どおり実施しました。この結果は、環境レポート等で公表します。			生活環境課
1-1	23	新幹線鉄道騒音調査及び測定	騒音・振動・悪臭の防止	新幹線鉄道の定期的な観測により、環境基準の達成について監視します。(100%定点基準達成)	新幹線鉄道の騒音・振動について調査、測定を実施。測定予定ヶ所2地点(下堀地区)	100%実施する。	測定定点数 2	測定定点数 2	定期的な観測による騒音防止の監視	定期的な観測による騒音防止の監視	◎	予定どおり実施しました。この結果は、環境レポート等で公表します。			生活環境課
1-1	23	アイドリングストップ運動	きれいな空気の確保	アイドリング・ストップ運動を推進します。	広報などによる啓発活動		WEB上へ掲示(職員向け) 1	WEB上へ掲示(職員向け) 1 市HPへの掲示 1	WEB上へ掲示(職員向け) 1 有線放送での啓発 6	啓発活動の実施	◎	6月の環境月間に併せ、市民に向けて、有線放送(6回)でアイドリング・ストップ運動への協力を呼びかけました。 また、職員に対し、ISOニュース等により、随時アイドリング・ストップの協力を呼びかけました。			生活環境課
1-1	44	市営駐車場の管理運営	環境にやさしい都市基盤・都市施設の整備	パークアンドライドを促進します。	快適に利用できる駐車場の管理運営	市営駐車場駐車台数 年320,000台	お城口駐車場 104873台 温泉口駐車場 31671台 お城口第二駐車場 199126台 計 335670台	お城口駐車場 94255台 温泉口駐車場 30269台 お城口第二駐車場 202000台 計 326524台	お城口駐車場 91932台 温泉口駐車場 28092台 お城口第二駐車場 205355台 計 325379台	市営駐車場駐車台数 年320,000台	◎				管理課
1-1	47	都市計画街路等建設工事	うるおいやゆとりある都市空間の形成	防音効果による良好な道路環境形成のため排水性舗装を推進します。	天神町新屋線L=0.4kmの排水性舗装工事	施工延長	H20年度まで 1.0km	0.4km		天神町新屋線 L=0.4km	△	・既存アスファルト舗装表面を切削し、基層として利用する予定であったが、切削したところクラックが多く排水性舗装の基層には不向きと判明したため、通常のアスファルト舗装に仕様を変更した。	既存の舗装を利用して排水性舗装を施工する際は、事前の調査を入念に行なう必要がある。		都市計画課
1-1	50	循環バス運行施策	1 きれいな空気の確保 1 環境にやさしい都市基盤・都市施設の整備	15 公共交通機関であるバスの利用促進を図り、自家用車の使用を軽減させます。	平成20年10月20日から運行を開始した「上田市街地循環バス」と、「オレンジバス」の利用者が増加するよう施策を検討する。	循環バス等利用者 目標5万7千人	循環バス利用者数 27549人 オレンジバス利用者数 36032人 計63581人	循環バス利用者数 23451人 オレンジバス利用者数 32872人 計56323人	循環バス利用者数 26031人 オレンジバス利用者数 33666人 計59697人	循環バス等利用者 目標5万7千人	◎	循環バスについては、国の補助を受け、実証運行を継続実施してきた。平成23年度は6回の乗降調査とヒアリング調査を実施して、運行の実態を把握し、平成23年4月18日からルートの一部見直しを行う。 オレンジバスについては、利便性を高めるために平成22年4月12日にルートの一部見直しを行った。また、平成23年4月18日からルートの一部見直しを行う。	上田市街地循環バスとオレンジバスについては、平成23年4月18日から運行ルートの一部見直しを行うので、利用状況を注視しながら見直しを検討していく。	循環バスについては、ヒアリング調査により、意見を集約している。オレンジバスについては、市民から感謝の意見が寄せられている。	地域交通政策課

環境基本計画基本目標			安全で安全に暮らせるまち			空気や水、土などが汚染されず、安全で健康かつ快適に過ごしていけるまちを目指します。									
環 境 保 全 項 目			きれいな水と安全な土壌を確保する			河川や地下水、またそれらを取り巻く土壌の汚染を防止し、きれいな水と安全な土壌環境の確保に努めます。									
環境基本計画	№	事務事業名	環境目的	環境目標	今年度の事業	効果を計る指標 (どの水準まで)	実績			H22目標	評価	平成22年度 総括	改善すべき課題	市民等からの意見	担当課
							H20	H21	H22						
1-2	23	河川水質調査及び検査	きれいな水の確保	定期的な調査により、河川水質の環境基準の達成について監視します。	市内河川の調査地点について、河川の状況を把握するため水質調査を実施する。この結果は、環境レポート等で公表していく。	毎月市内16地点の検査を実施し、年2・4回調査する地点も含め計35地点の検査により水質監視する。	BOD環境基準達成率 上田地域93.2% (10河川17地点) 丸子地域96.9% (3河川4地点) 真田地域100% (9河川15地点) 武石地域100% (7河川16地点)	BOD環境基準達成率 上田地域88.4% (10河川15地点) 丸子地域96.9% (3河川4地点) 真田地域100% (9河川10地点) 武石地域100% (6河川6地点)	水質検査による水質の監視	水質検査による水質の監視	◎	延べ252検体について、河川の水質検査を実施しました。この結果は、環境レポート等で公表します。			生活環境課
1-2	23	地下水水質調査及び検査 (硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の監視)	土壌・地下水の保全	定期的な調査により、地下水質の環境基準の達成について監視します。	市内の地下水(井戸水)について、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素を含む水質検査を実施する。	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の基準値達成。	環境基準達成率 92.3 調査地点 13	環境基準達成率 75 調査地点 12	水質検査による水質の監視	水質検査による水質の監視	◎	平成22年11月24日、市内12地点の検査を実施しました。この結果は、環境レポート等で公表します。			生活環境課
1-2	23	地下水水質調査及び検査 (低沸点有機化学物質の監視)	有害化学物質による汚染の防止	地下水質の低沸点有機化学物質の環境基準の達成について監視します。	市内13地点の地下水(井戸水)について、年一回低沸点有機塩素系化学物質(トリクロエチレン、テトラクロチレン、1,1,1-トリクロエタン)を含む項目を調査。	低沸点有機塩素系化学物質(トリクロエチレン、テトラクロチレン、1,1,1-トリクロエタン)の環境基準値の達成。	3物質の環境基準達成率 100% 調査地点数 13	3物質の環境基準達成率 100% 調査地点数 13	水質検査による水質の監視	水質検査による水質の監視	◎	平成22年11月24日、市内12地点の検査を実施しました。この結果は、環境レポート等で公表します。			生活環境課
1-2	23	合併処理浄化槽設置整備事業	きれいな水と安全な土壌を確保する	公共下水道・農業集落排水の整備区域外において、合併処理浄化槽の設置を促進します。	申請に対する補助金の交付	合併処理浄化槽設置整備事業での新設7基	設置基数(基)10 設置基数累計(基) 1407	設置基数(基)7 設置基数累計(基) 1414	設置基数(基) 6 設置基数累計(基) 1420	7基	○	公共下水道の普及により合併処理浄化槽設置件数は多くはありませんが、今後も該当区域に対しての設置を推進していきます。			生活環境課
1-2	54	危険物施設立入検査	環境保全の推進	漏洩事故による土壌、地下水への影響を説明し、環境に対する意識の啓発を図る。	危険物施設立入検査40件の実施を予定し、施設の安全管理、漏洩事故防止について指導する。	危険物施設立入検査実施件数40件以上 事故発生件数0件	立入検査実施数 34件 事故発生件数 0件	立入検査実施数 46件 事故発生件数 0件	立入検査実施数 41件 事故発生件数 1件	立入検査実施数 40件以上 事故発生件数 0件	◎	危険物施設立入検査41件実施したが、漏洩1件の発生。	立入検査を実施して、危険物施設からの漏洩事故の無いよう指導する。		中央消防課
1-2	55	危険物施設立入検査	環境保全の推進	漏洩事故による土壌、地下水への影響を説明し、環境に対する意識の啓発を図る。	20施設を目標に立ち入り検査を実施する	漏洩事故発生ゼロ件	検査数 20件 指示件数 5件	検査数 19件 指示件数 7件	検査数 件 指示件数 件	漏洩事故発生 ゼロ件	○	危険物漏洩に係る出動件数は18件であるが、そのうち12件は交通事故による車両からの燃料又はエンジンオイルの漏えいである。また、残る6件についても、ほとんどが家庭用ホームタンクからの漏えいで、早期対応により漏えい範囲をほぼ敷地内に留め、環境への影響は最小限に抑制している。			南部消防課
1-2	56	危険物施設立入検査	環境保全の推進	漏洩事故による土壌、地下水への影響を説明し環境に対する意識の啓発を図る。	危険物施設等のある防火対象物立入検査を47箇所予定し、施設の安全管理について指導する。	予定件数を実施し、事故発生件数ゼロを目指す。	危険物施設等の立入検査を実施し、漏洩事故はゼロである。	危険物施設等の立入検査を実施し、漏洩事故はゼロである。	危険物施設等の立入検査を実施し、漏洩事故はゼロである。	危険物施設等のある防火対象物立入検査を行い、施設の安全管理について指導し事故発生件数ゼロを目指す。	◎	危険物施設等の立入検査の他、防火対象物にも危険物施設が有る事から、少量危険物貯蔵施設 指定数量以上の危険物の貯蔵を行っている施設に対し危険物漏洩の事故防止について指導を実施した。			東北消防課
1-2	59		水環境の保全を図る	水環境の保全のための啓発活動を行うと共に、保全活動も行う	1住民環境啓発 2イベント等の実施参加 3他課実施活動の援助										経営管理課

環境基本計画基本目標			安全で安全に暮らせるまち			空気や水、土などが汚染されず、安全で健康かつ快適に過ごしていけるまちを目指します。									
環 境 保 全 項 目			きれいな水と安全な土壌を確保する			河川や地下水、またそれらを取り巻く土壌の汚染を防止し、きれいな水と安全な土壌環境の確保に努めます。									
環境基本計画	№	事務事業名	環境目的	環境目標	今年度の事業	効果を計る指標 (どの水準まで)	実績			H22目標	評価	平成22年度 総括	改善すべき課題	市民等からの意見	担当課
							H20	H21	H22						
1-2	60	下水道の普及促進	きれいな水の確保	公共下水道事業、農業集落排水事業等を推進します	下水道未接続者に対する啓発文書発送 (共用開始後6月・1年・2年・3年各経過した者) ・取付管立会時の啓発(随時) ・戸別訪問の実施 ・促進チラシの戸別配布 「下水道の日」における啓発 水洗化促進標語募集	水洗化率 ・平成22年4月1日時点の下水道水洗化(利用)率を85%に向上させる。 確認申請件数 ・1,200件を目標とする	啓発文書等 995件 下水道水洗化率 82.0% 確認申請件数 1631件 電話・戸別訪問 2781件	啓発文書等 693件 下水道水洗化率 84% 確認申請件数 1255件 電話・戸別訪問 1195件	啓発文書等 476件 下水道水洗化率 85.6% 確認申請件数 1043件 電話・戸別訪問 131件	水洗化率 85% 確認申請件数 1,200件	○	・水洗化(利用)率については、目標85%に対し85.6%と目標を達成することができた。 ・確認申請件数については下半期も伸び悩み結果1043件と目標を達成することができなかった。 ・その他、標語募集、懸垂幕、車両用ステッカーの作製等については計画通り水洗化啓発を実施。 ・戸別訪問について、下半期は他の調査のため実施することができなかった。	・水洗化率がここまで上がってくると、戸別訪問水洗化啓発等実施してもなかなか効果が上がらない現状がある。次年度以降については、効果につながる新しい水洗化促進策の模索が課題となる。		サービス課
1-2	61	漏水調査	水資源の有効活用	有収率の向上	漏水調査 管路延長 L=124.2km 戸別音聴調査箇所15,000箇所 夜間路面音聴調査 L=10 km	漏水箇所数及び推定漏水量	件数 71件 漏水量 144802m3	件数 48件 漏水量 207533m3	漏水調査 管路延長 L=124.2km 戸別音聴調査箇所16,690箇所 夜間路面音聴調査 L=10 km	有収率の向上	◎	漏水調査 管路延長 L=124.2km 戸別音聴調査箇所16,690箇所 夜間路面音聴調査 L=10 km			上水道課
1-2	61	鉛給水管布設替え	安心安全な水道	鉛給水管の解消	鉛給水管布設替 計画修繕対応 420件 故障修繕対応 100件 水道本管工事対応 30件 計 550件	布設替件数	布設替件数 548件 残存件数 4183件	布設替件数 1038件 残存件数 3145件	布設替件数 568件 残存件数 2577件	鉛給水管布設替 550件	◎	鉛給水管布設替 計画修繕対応 405件 故障修繕対応 134件 水道本管工事対応 25件 計 568件			上水道課
1-2	62	公共下水道事業、農業集落排水事業	きれいな水と安全な土壌を確保	公共下水道事業、農業集落排水事業を推進する	○管渠の整備 L=5.7km ○処理場の整備 南部終末処理場 改築	普及率 平成22年度末目標74.7% (上田地域98.7%)									下水道課
1-2	63	浄水場運転管理	安心、安全な水道水の提供	環境に配慮した浄水場管理	①浄水場、施設における消毒剤の適正な注入 ②需要量に見合った適正な取水量管理 ③浄水場泥土の適正な処理処分委託 ④河川水質検査の実施	①浄水場元出し水 通常0.8mg／ℓ以下 末端給水栓水 通常0.1mg／ℓ以上 ②配水量の120%以内 ③全泥土量の5割程度を処理処分委託 ④検査回数	環境に配慮した浄水場管理	環境に配慮した浄水場管理	環境に配慮した浄水場管理	環境に配慮した浄水場管理	○	①浄水場元出し水 元出し最大 染屋 0.62mg/l 石舟 0.79mg/l 末端給水栓水 0.1mg/l 以上保持 ②配水量 年間平均 126% ③全泥土量の処理処分委託 約1061m ³ 中約627m ³ 委託(約59%) ④検査回数 月1回実施中	委託する泥土量(比率)を増やし、改良土等の製品で自然還元に努める。		浄水管理センター
1-2	63	浄水場運転管理	安心、安全な水道水の提供	環境に配慮した浄水場管理	①浄水場、施設における消毒剤の適正な注入 ②河川水質検査の実施	①浄水場元出し水 通常0.8mg／ℓ以下 末端給水栓水 通常0.1mg／ℓ以上 ②検査回数	環境に配慮した浄水場管理	環境に配慮した浄水場管理	環境に配慮した浄水場管理	環境に配慮した浄水場管理	○	①浄水場元出し水 元出し最大 腰越浄水場 0.65 鹿教湯浄水場 0.78 末端給水栓水 末端0.1以上保持 ②検査回数 年4回			浄水管理センター(丸子)

環境基本計画基本目標			安全で安全に暮らせるまち			空気や水、土などが汚染されず、安全で健康かつ快適に過ごしていけるまちを目指します。									
環 境 保 全 項 目			有害化学物質による汚染を未然に防止する			私たちの安全な暮らしを確保するために、有害化学物質による環境汚染の防止に努めます。									
環境基本計画	№	事務事業名	環境目的	環境目標	今年度の事業	効果を計る指標 (どの水準まで)	実績			H22目標	評価	平成22年度 総括	改善すべき課題	市民等からの意見	担当課
							H20	H21	H22						
1-3	23	ダイオキシン類の環境汚染調査	有害化学物質による汚染の防止	大気、河川、土壌などにおいて、ダイオキシン類汚染状況を調査・測定し、その結果を公表するとともに、有害物質に関する情報を提供します。	年一回、一般環境大気4ヶ所、河川4ヶ所、土壌3ヶ所等について調査。	環境基準値達成	調査地点数 大気 4 河川 3 土壌 4 底質土 1	調査地点数 大気 5 河川 3 土壌 4 底質土 -	調査、測定による有害物質汚染の監視	調査、測定による有害物質汚染の監視	◎	予定どおり実施しました。この結果は、環境レポート等で公表します。			生活環境課
1-3	57	防火対象物、危険物施設立入検査及び条例届出検査	漏油による環境汚染をなくす	漏油事故をなくす	①立入検査を実施 ②届出検査を実施 ③広報を実施	①漏油事故ゼロ	漏油事故 2件 検査 11件	漏油事故 2件 検査 42件	漏油事故 3件 検査 45件	漏油事故ゼロ	○	① 立入検査 45 件 ② 届出検査 48 件 ③ 広 報 582 件 漏油事故状況 3 件	効果的な広報の工夫が必要		川西消防課

環境基本計画基本目標			自然・いきもの・人が共生するまち			市の環境を代表する里山や森林などの豊かな自然を保全し、ふれあいの場をもつことで、自然との共存を目指します。									
環 境 保 全 項 目			森や里山を守り・親しむ			上田市の特徴でもある豊かな森林や里山を未来の世代に引き継いでいくため、これらに親しみ、触れ合う機会を創出し、多くの人が保全活動に参画していくことを目指します。									
環境基本計画	№	事務事業名	環境目的	環境目標	今年度の事業	効果を計る指標 (どの水準まで)	実績			H22目標	評価	平成22年度 総括	改善すべき課題	市民等からの意見	担当課
							H20	H21	H22						
2-1	42	造林事業	森林の育成・保全	県の森林税等を活用して私有林150haの間伐を推進し、健全な森林を育成する。	①私有林間伐150haの実施	①間伐の実施面積	間伐面積 62ha	間伐面積 126ha	間伐面積 266ha	間伐の実施面積 私有林間伐 150ha	◎	手入れの行届かない森林の間伐について、信州上小森林組合等の事業実施主体が地権者の合意が得られた地区から順次事業を開始した結果、最終的には19地区、約266haにおいて間伐が促進された。	健全な森林育成・保全のため、引続き、手入れの行届かない森林を中心に間伐を促進するとともに、早期発注に努め、年度内完了を目指す。		森林整備課
2-1	42	松くい虫防除対策事業	松くい虫被害を防除し、健全な松林を育てる	被害木伐倒薬剤処理 V=8,000m3	①被害木8,000m3の伐倒薬剤処理	①被害木の処理量	処理量 7964m3	処理量 12992m3	処理量 8,950m3	被害木8,000m3の伐倒薬剤処理	◎	国県の補助事業を活用し、市内全域においてV=8,950㎡の被害木の伐倒駆除を実施した。 (国補事業…V=5,514㎡ 県補事業…V=2,641㎡ 市単事業…V=795㎡)	空中散布中止区域での松くい虫被害の拡大防止に努めるとともに、引続き、被害木の伐倒処理等を迅速に行う。		森林整備課
2-1	68	地域青少年育成指導者養成講座	子ども向けのレクリエーションや野外体験活動などの指導者を養成する。	ネイチャーゲーム、野外活動全般の講習会等を年5回以上開催する。	ネイチャーゲーム・応急処置・親子レクリエーション・野外活動の講習会、自然・キャンプ体験教室、里山遊び体験教室を開催する。	ネイチャーゲーム、野外活動全般の講習会等を年5回以上開催する。									生涯学習課
2-1	77	天然記念物の保護	天然記念物の保護及び生息地の環境保全に努める	天然記念物の保護パトロールの実施及び生息地の環境保全に対する啓発	天然記念物の保護パトロールの実施及び生息地の環境保全に対する啓発	・天然記念物の増加 ・マダラヤンマの保護	啓発活動の実施	啓発活動の実施	啓発活動の実施	啓発活動の実施	△	・マダラヤンマの保護パトロールは9月で終了したが、例年い以上に飛翔がみられた。また、その活動の中で、県のレッドデータブックに登録されているオオトラフトンボも多く確認することができた。 高山蝶保護、高山植物のクロマメの木パトロールは、天候不順により実施しなかった。	・天然記念物の保護パトロールに加えて、啓発活動も進めていきたい。		文化振興課

環境基本計画基本目標			自然・いきもの・人が共生するまち			市の環境を代表する里山や森林などの豊かな自然を保全し、ふれあいの場をもつことで、自然との共存を目指します。									
環 境 保 全 項 目			水辺環境を守り・親しむ			これらの豊かな環境を保全していくため、健全な河川環境を確保し、身近な水辺環境を市民自らが親しみ、学びの場とすることにより、水辺環境の保全を推進していきます。									
環境基本計画	№	事務事業名	環境目的	環境目標	今年度の事業	効果を計る指標 (どの水準まで)	実績			H22目標	評価	平成22年度 総括	改善すべき 課 題	市民等からの 意 見	担当課
							H20	H21	H22						
2-2	23	河川愛護活動	自然の保全・活用	河川環境の保全活動を推進します。	河川愛護活動の実施	河川活動をした団体数 52団体	活動実施団体数 上田 53 丸子 24 真田 10 武石 2	活動実施団体数 上田 53 丸子 25 真田 11 武石 2	活動実施団体数 上田 55 丸子 23 真田 9 武石 2	河川活動団体数 52団体	◎	各愛護会ごとに河川の清掃、草取り等を実施。上田・丸子地域で新たに1団体ずつ河川愛護会が結成され活動されました。			生活環境課
2-2	43	① 多自然型水路整備 ② 農地・水・環境保全向上対策への支援	1 自然・生き物・人が共生するまち 5 環境を思いやる人があふれるまち	① 農業用用水路において、環境に配慮した工法を推進します。 ② 非農業者も加えた地域の協働による、農業施設や環境の維持保全活動を支援します。	① 多自然型水路を1ヶ所整備する。 ② 13組織を支援する。	① 多自然型水路を1ヶ所整備する。 ② 地域住民全体で環境意識を共有する。	地域共同による、農業施設や環境の維持保全活動の支援	地域共同による、農業施設や環境の維持保全活動の支援	地域共同による、農業施設や環境の維持保全活動の支援	地域共同による、農業施設や環境の維持保全活動の支援	○				土地改良課
2-2	68	自然活動体験教室事業	川遊びやキャンプを通じて、身近な自然とのふれあい	自然体験活動事業を年3回実施する。	千曲川、峰の原高原や武石・巢栗溪谷等での川遊び、キャンプ、自然体験活動を通じて、市民に身近な自然とのふれあいを体験してもらう。	自然活動体験事業を年3回開催する。									生涯学習課
2-2	73	「ビオトープ生き物観察・水生昆虫デジタル写真教室」	未来を担う子どもたちに対し環境の大切さを伝える。	清流のすばらしさ、自然環境の大切さを、子どもたちの記憶に残す。	①信州上田千曲川少年団 NPO法人信州いわなの学校等の市民団体と一緒に、 ②塩田平に関係深い依田川の支流・武石川で、遊びながら川に親しむ ③清流のすばらしさ、自然環境の大切さを感じてもらい記憶に残る機会とする。	①参加者延べ人数 1講座30人 ②参加者の満足度 70% 参加者アンケートの結果から	参加者 17	参加者 49	参加者 18	子供たちに環境の大切さを伝える	◎	1泊2日間の開催となり、延べ人数はクリアしたが、今回はプリンターまで行ったので宿泊もした。少し経費もかかり、また夏休みの2日間ということで、参加者が伸びなかった。ただ内容は、プロのカメラマンから指導を受けるもので、自然と親しむ面で貴重な体験が出来良かった。	PRをもっとしていきたい。		塩田公民館 (解放会館)

環境基本計画基本目標			自然・いきもの・人が共生するまち			市の環境を代表する里山や森林などの豊かな自然を保全し、ふれあいの場をもつことで、自然との共存を目指します。									
環 境 保 全 項 目			農環境を守り・親しむ			自然資源としての農環境を保全するため、農地と触れ合う機会を創出し、担い手育成を含め、持続可能な農業を積極的に推進していきます。									
環境基本計画	№	事務事業名	環境目的	環境目標	今年度の事業	効果を計る指標 (どの水準まで)	実績			H22目標	評価	平成22年度 総括	改善すべき課題	市民等からの意見	担当課
							H20	H21	H22						
2-3	41	担い手への農地の利用集積による優良農地の確保	農地の保全・活用	農地の保全・活用を図る。 (数値目標 平成22年度 80ha)	担い手農家への農地の利用集積の促進	農用地流動化促進奨励金対象面積 21年度末 90ha →22年度目標 80ha	農用地流動化促進奨励金対象面積 87ha	農用地流動化促進奨励金対象面積 90ha	農用地流動化促進奨励金対象面積	80ha	○				農政課
2-3	41	遊休荒廃農地の解消等による優良農地の確保	農地の保全・活用	農地の保全・活用を図る。 (数値目標 平成22年度 遊休農地解消面積 5ha)	遊休荒廃農地の解消 (補助事業等) 農業者との意見交換 遊休農地解消計画の策定	補助事業等による遊休農地の解消 目標面積 21年度末10ha/年 →22年度目標約5ha/年(継続的に解消)	遊休荒廃農地活性化対策事業による解消面積 4.5ha	遊休荒廃農地活性化対策事業による解消面積 10ha	遊休荒廃農地活性化対策事業による解消面積	5ha	○				農政課
2-3	41	稲倉棚田の保全	棚田の保全と活用	棚田の景観を保全します。 (荒廃した棚田の有効活用)	①田植体験の受け入れ 2校 ②棚田オーナーの取組 27組受入 ③ほたる火まつりの実施 ④堰免の荒廃農地の復旧と有効活用	①田植体験の受け入れ ②棚田オーナーの取組 ③堰免の荒廃農地の復旧と有効活用	棚田面積 24.5ha ドロヤナギ定植面積 0.3ha 棚田オーナー数 20組 田植体験校数 2校	棚田面積 25ha ドロヤナギ定植面積 0ha 棚田オーナー数 27組 田植体験校数 2校	棚田面積 25ha ドロヤナギ定植面積 0ha 棚田オーナー数 35組 田植体験校数 2校	荒廃した棚田の有効活用	◎	田植体験の受け入れ、棚田オーナーの取組、ほたる火まつりの実施等を行い、堰免の荒廃農地の復旧と有効活用を行い、棚田の景観保全に努めました。			農政課
2-3	67	学童農園事業	環境にやさしい人を育む	学校での環境教育・環境学習活動を推進します	・児童による田植えは、協力者、地方事務所の指導による手植え。 ・夏場はあぜ等の草取りを中心に田の管理を行う。 ・収穫は手刈りで行い、はぜにかけ天日乾燥する。 ・脱穀、わらまき等も児童が主となって行う。 ・収穫祭に協力者を招き、全員で収穫を祝う。	・上田地域小学校(16校)の5年生 1,500人 ・平成22年度の耕作面積 18,182㎡ (保全農地面積)	面積 18861㎡	面積 18090㎡	面積 18,182㎡	耕作面積 18,182㎡	◎	・雨の影響で稲刈り、脱穀が若干遅れた学校もあったが、ほぼ予定通り完了した。 ・自ら育て、収穫した米を協力者の皆さんと食べることによって、食べ物を得ることの大変さ、重要さを体感することができた。 ・農薬を使用しないため、安心して食べることができる稲作ができた。	・農業委員会等の協力を得て農地は何とか確保できているが徐々に減少傾向にある。 ・指導者が高齢になってきており、現在の方が継続できなくなった時、次の指導者確保が困難。		学校教育課
2-3	86	遊休荒廃農地の解消等による優良農地の確保	農地の保全・活用	農地の保全・活用を図る(数値目標 平成22年度 遊休荒廃農地解消面積 5ha)	遊休荒廃農地の解消 (遊休荒廃農地解消対策委員会 地区審単位での解消)	補助事業等による遊休荒廃農地解消目標面積 21年度末10ha/年 ⇒22年度目標約5ha/年(行政と連携して解消)	遊休荒廃農地の解消	遊休荒廃農地の解消	遊休荒廃農地の解消	遊休荒廃農地の解消	◎	年度末の農業委員による解消面積は、2.3ha。市の解消面積が、3.1ha。計5.3haであった。			農業委員会事務局

環境基本計画基本目標			地域資源を活かし地球にやさしいまち			自然由来のエネルギー資源を有効活用し、継続的な資源の確保と地球環境にやさしいまちを目指します。									
環 境 保 全 項 目			循環型社会の形成に努める			市民や事業者に定着しつつある分別収集・リサイクル活動を更に推進し、リサイクルシステムの整備を推進することにより、循環型社会の形成に努めていきます。									
環境基本計画	№	事務事業名	環境目的	環境目標	今年度の事業	効果を計る指標 (どの水準まで)	実績			H22目標	評価	平成22年度 総括	改善すべき課題	市民等からの意見	担当課
							H20	H21	H22						
3-1	1	実施計画・総合計画の策定	循環型社会形成の形成に努める、地球温暖化防止活動を推進する、地域資源を有効活用する	環境配慮項目の導入、環境配慮事業の優先実施に向けて仕組みづくりを進める。	1 庁内協議 2 査定 3 市民説明 4 公表	◆環境配慮事業数:新規1件以上 ◆資料提出部数:5部 (その他必要分は両面コピー) ◆査定資料印刷枚数:対前年20%程度削減 ◆冊子印刷部数:200部→150部		◆市長査定資料印刷枚数 210ページ (×20部) ◆冊子印刷枚数(地域別懇談会)4,000枚	◆市長査定資料印刷枚数 96ページ×20部＝1,920ページ ◆冊子印刷枚数(地域別懇談会)9会場×200枚＝1,800枚	◆査定資料印刷枚数 対前年20%程度削減 ◆冊子印刷部数 200部→150部	○	・実施計画冊子について、200冊→150冊の印刷としたが、予備等を含め200冊印刷で計画に無理があった。なお、総ページ数を前年36pから今年度30pに圧縮し紙使用の削減を図った。(36p×200＝7,200p→30p×200＝6,000P、△16.7%)市長査定資料の削減も図った。 ・上記の結果、コピー枚数は76,156枚で、総合計画後期計画を策定したにもかかわらず、大幅な増加とならず、対前年度比113.5%であった。(前年67,097枚) また、基準となる平成19年度比では△9.1%であった。	・コピー数の削減も限界に近いことから、日常業務の中での消灯や、プリントアウト時に無駄の無い印刷を心がけること。また、東日本大震災における東京電力等の計画停電も実施されている中、中部電力館内ではあるが、積極的に節電に努めること。		政策企画課
3-1	24	ごみ減量・再資源化対策事業①	循環型社会の形成に努める	廃棄物を減量し、リサイクルを推進します	1 剪定枝木類の資源化 2 ごみ減量化機器等購入費補助金 3 焼却灰のリサイクル	・可燃ごみの減量目標 前年度比△500トン/年 (△1.5%) ・資源化率20%以上	可燃ごみの推移(トン) 処理量 36571 前年度比 △1069 (△2.8%)	可燃ごみの推移(トン) 処理量 34280 前年度比 △2291 (△6.3%)	可燃ごみの推移(トン) 処理量 34853 前年度比 573 (1.7%)	・可燃ごみの減量目標 前年度比△500トン/年 (△1.5%)	○	1 剪定枝木類の資源化実績 年間 563トン 2 ごみ減量化機器等購入費補助金の交付実績 (22年度) ・ごみ減量化機器 184件 206台 ・ごみ減量化基材 689件 1,100袋 3 焼却灰リサイクル実績 年間 598トン (下半期 328トン)	可燃ごみの処理量は、8月に発生した豪雨災害に伴う災害廃棄物の受入れなどもあり、前年度より573トン(1.7%)増加した。次年度は減量化に向けた取り組みをさらに進める必要がある。		廃棄物対策課
3-1	24	ごみ減量・再資源化対策事業②	循環型社会の形成に努める	ごみ減量・リサイクル活動の普及啓発を推進します	1 市民への周知、啓発 2 講座等の開催 3 市民、事業者の環境保全活動の支援	・可燃ごみの減量目標 前年度比△500トン/年 (△1.5%) ・資源化率20%以上	資源化率推移 22.5%	資源化率推移 23.1%	資源化率推移 22.6%	資源化率 20%以上	○	自治会回覧やパンフレット等の配布、リサイクルやエコ講座、出前講座など、様々な機会を捉えて市民へのごみ減量・リサイクル活動の普及啓発を推進しました。			廃棄物対策課

環境基本計画基本目標			地域資源を活かし地球にやさしいまち			自然由来のエネルギー資源を有効活用し、継続的な資源の確保と地球環境にやさしいまちを目指します。									
環 境 保 全 項 目			地球温暖化防止活動を推進する			地球環境の保全のため、地球温暖化防止に関する活動を積極的に推進していきます。									
環境基本計画	№	事務事業名	環境目的	環境目標	今年度の事業	効果を計る指標 (どの水準まで)	実績			H22目標	評価	平成22年度 総括	改善すべき課題	市民等からの意見	担当課
							H20	H21	H22						
3-2	9	職員の管理に関すること	エコオフィスの推進	ノー残業デー、19(育児)の日、クールビズの普及促進によるエコオフィスの推進	・ノー残業デー(水曜日) ・19(育児)の日(毎月19日) ・クールビズ(6月～9月)	・実施状況の把握									人材開発課
3-2	23	新エネルギー活用施設(太陽光発電・太陽熱利用施設)設置補助	エネルギーの有効利用	新エネルギー・省エネルギーに関する補助や情報提供を進めます。	新エネルギー活用施設に対する補助金交付	目標 250件	補助金交付件数 188件	補助金交付件数 243件	補助金交付件数 577件	250件	◎	交付件数の伸びからも、環境への関心の高さがうかがえます。 平成23年度においても補助を継続していきます。			生活環境課
3-2	23	エコオフィスうえだ(上田市役所地球温暖化防止実行計画)の推進	地球環境の保全・行政の率先行動	市役所庁舎内などの市の活動に伴う温室効果ガスの排出量抑制を推進します。	・「第二次上田市役所地球温暖化防止実行計画」の推進を図る。 ・長野県に「温室効果ガス排出抑制計画」を提出し、推進を図る。	・国に「改正省エネ法」報告書を提出し、併せてエコオフィスうえだの推進を図る。	26170t-co2	24343t-co2	集計中	全庁舎の温室効果ガス総排出量(基準 H19年度 25,660t-co2)	◎	改正省エネルギー法について、各課所の環境管理推進委員を対象に研修を行いました。 その中で、各課所へのエネルギー使用量等の削減及び各施設のエネルギー効率の高い機器の導入等、ソフト面及びハード面での取り組み協力について依頼しました。 また、改正省エネ法については、各課所での取組予定について報告してもらい、とりまとめをし、国へ提出しました。 平成22年度の結果は、環境レポート等で公表します。			生活環境課

環境基本計画基本目標			地域資源を活かし地球にやさしいまち			自然由来のエネルギー資源を有効活用し、継続的な資源の確保と地球環境にやさしいまちを目指します。									
環 境 保 全 項 目			地球温暖化防止活動を推進する			地球環境の保全のため、地球温暖化防止に関する活動を積極的に推進していきます。									
環境基本計画	№	事務事業名	環境目的	環境目標	今年度の事業	効果を計る指標 (どの水準まで)	実績			H22目標	評価	平成22年度 総括	改善すべき 課 題	市民等からの 意 見	担当課
							H20	H21	H22						
3-2	23	環境家計簿の活用	地球環境の保全・環境教育の推進	家庭版ISOの普及を推進します	広報等へ募集掲載 環境家計簿の配布・回収・評価	うえだエコ隊参加(環境家計簿回収) 家庭数 5世帯	環境家計簿回収数 1	環境家計簿回収数 1	環境家計簿回収数 1	家庭における、環境保全及び環境教育の推進	○	応募のあった1件については、結果報告もあり、半年間のCO2削減量を通知すると共に、「環境にやさしい認定証」を交付しました。	家庭での、環境保全に係る取組みは重要であることは、誰もが認識していることと思われるますが、半年間の、水、電気等の使用量やゴミ量を計測することはなかなか難しいことと思われます。やり方を検討する必要があると思われます。		生活環境課
3-2	23	ISO14001普及啓発	地球環境の保全	ISO14001などの、事業者に対する環境マネジメントシステムに関する情報を提供し、支援します。	うえだ環境ISOネットワーク・長野県環境保全協会上小支部の活動などを通して、企業との情報交換・各種事業の実施	・各イベントの際に協力して実施すること	・うえだ環境フェア協力、情報提供 ・カレンダー・手帳プレゼント会 ・各種会議の際の情報交換	・うえだ環境フェア協力、情報提供 ・カレンダー・手帳プレゼント会 ・各種会議の際の情報交換	・うえだ環境フェア協力、情報提供 ・カレンダー・手帳プレゼント会 ・各種会議の際の情報交換	各種団体との協力により環境保全の推進を図る	◎	うえだ環境フェアへの協力、カレンダー・手帳のプレゼント会を行いました。各イベントから、環境保全への意識の高さがうかがわれました。			生活環境課
3-2	23	うえだ環境フェア(消費生活展)の開催	廃棄物の減量と資源再利用の促進	各種団体と協力して、廃棄物の減量と資源再利用の促進に努めます。	うえだ環境フェアの開催 10月17日 (土)	①来場者数 1,000人 ②アンケートによる来場者満足度 90%以上	来場者数 1300人 満足度 90%	来場者数 1100人 満足度 90%	来場者数 1100人 満足度 90%	来場者数 1,000人 アンケートによる来場者満足度 90%以上	◎	10月9日(土)開催しました。各種団体と協力し、来場者に満足していただける催しとなりました。			生活環境課
3-2	39	池波正太郎真田太平記館の管理運営	①利用者への環境啓発 ②エコオフィスの推進(一人当りの電気・水道量等の削減)	電気等の節減と入館者数の増加(環境啓発とエコオフィスの推進)	①環境啓発に関するポスター等の掲示 ②入館者増加により、一人当りの光熱水費の抑制 ③光熱水費の節減(節電の徹底、施設内の適正な温度管理) ④来館者向け環境啓発の具体的取組み検討	①②入館者数年間3万人以上。一人当りの電気量5kwh以下。	入館者数(人) 32110 電気総量(kwh) 188609 入館者一人当電気量(kwh) 5.87	入館者数(人) 33391 電気総量(kwh) 206951 入館者一人当電気量(kwh) 6.2	入館者数(人) 32814 電気総量(kwh) 178028 入館者一人当電気量(kwh) 5.43	入館者数年間3万人以上。一人当りの電気量 5kwh以下。	○	・電気使用量は前年に比べ閉館後の消灯等節電の徹底、施設内の適正な温度管理を行い、節減することができた。入館者数は災害の影響により大幅に減少したため前年度入館者数を下回った。 ・企画展及び館行事の開催による事務量の増加及び会議資料の作成が増加したためコピー使用量が増加している。	・光熱水費の節減の徹底 ・コピー使用枚数の減少		池波正太郎真田太平記館
3-2	64	小中学校改築事業	地球温暖化防止活動の推進	環境にやさしい学校づくり(太陽光発電システムなどの導入検討)	小中学校への太陽光発電システムなどの導入の検討	小中学校施設の移転改築時に太陽光発電施設などの導入の可能性を検討する。		塩田中学校 (20Kwh)	武石小学校 (10Kwh)	太陽光発電システムなどの導入検討	◎	小中学校施設の移転改築時に太陽光発電施設などの導入の可能性を検討。 ※武石地域教育事務所の所管事業として、武石小学校体育館改築事業にあわせて、太陽光発電システムを設置した。	これまでの実績等を検証しながら、小中学校の改築にあわせて、システムの導入を検討する。		教育総務課
3-2	82	環境への負荷の低減に係る啓発事業	利用者への環境負荷低減活動の啓発	エコオフィスうえだ推進活動のPRと啓発を兼ねた館内掲示	地球環境保護意識の高揚と同時に自然運動公園管理施設のランニングコスト削減のため「上田市役所地球温暖化防止実行計画」に基づく環境負荷の低減活動のPRと協力を兼ねた啓発(館内掲示)を行う。		啓発活動の実施	啓発活動の実施	啓発活動の実施	啓発活動の実施	◎	エコオフィスうえだ推進活動のPRと啓発を兼ねた館内掲示を6月に行った。			自然運動公園管理事務所

環境基本計画基本目標			地域資源を活かし地球にやさしいまち			自然由来のエネルギー資源を有効活用し、継続的な資源の確保と地球環境にやさしいまちを目指します。									
環 境 保 全 項 目			地域資源を有効利用する			自然由来のエネルギー資源を有効活用し、継続的な資源の確保と地球環境にやさしいまちを目指します。									
環境基本計画	№	事務事業名	環境目的	環境目標	今年度の事業	効果を計る指標 (どの水準まで)	実績			H22目標	評価	平成22年度 総括	改善すべき課題	市民等からの意見	担当課
							H20	H21	H22						
3-3	23	雨水貯留施設設置補助	水資源の保全	雨水貯留施設に関する補助や情報提供を進めます。	雨水貯留施設に対する補助の実施	補助金交付件数 25件	補助金交付件数 25件	補助金交付件数 22件	補助金交付件数 42件	25件	◎	交付件数の伸びからも、環境への関心の高さがうかがえます。 平成23年度においても補助を継続していきます。			生活環境課
3-3	36	「新技術等開発事業」助成金	廃棄物の減量と資源再利用の促進 エネルギーの有効利用	環境にやさしい「新技術等の開発」を行った業者に対し応援します。	事業者への補助事業制度の周知	交付要綱に適合すし、採択された申請事業者に補助金を交付する。	交付件数 7件	交付件数 6件	交付件数 6件	事業者への補助事業制度について周知	◎		第三者監査において、具体的な数値目標の設定について指摘がありました。数値目標として馴染むか。また、どのような目標であれば数値として管理することが出来るか検討したい。		商工課
3-3	48	樹木の剪定等	廃棄物の減量と資源再利用の促進	剪定された樹木等のリサイクル化を図る。	剪定樹木の有効利用 ①チップリサイクル化の推進 ②燃料としての使用	有効利用100% ①剪定木のチップリサイクル化率 ②剪定木の燃料としての使用率	チップリサイクル化 53% 燃料(有効利用) 38% 焼却処分 9% 計100%	チップリサイクル化 100% 燃料(有効利用) % 焼却処分 % 計100%	チップリサイクル化 100% 燃料(有効利用) % 焼却処分 % 計100%	有効利用100%	◎	今年は災害が多く、剪定木以外の樹木をチップとして再利用した。 また、自治会等より出た剪定木の回収を行い、チップと土と混ぜて堆肥化し、花壇に加えた。公園内の遊歩道に敷きつめた。			公園緑地課
3-3	52	施設建設事業	資源を活かした公共工事を推進する。	建設工事にあたり、環境に配慮した計画・設計及び工事施工に努める。	1計画・設計における環境配慮 2工事施工における環境配慮	別紙様式G1のとおり	環境配慮	環境配慮	環境配慮	環境配慮	○	報告対象となる2,000万円以上の事業10件について目標の100%は達成出来なかったが、98.1%とほぼ目標を達成した。			建築課

環境基本計画基本目標		歴史や調和を大切にするまち				文化的資源を保存し、古いものを大切にすることを育むとともに、調和のとれた美しいまちなみのあるまちを目指します。									
環 境 保 全 項 目		歴史・文化を未来に引き継ぐ				上田市の恵まれた歴史的建造物など歴史・文化遺産や伝統芸能を保存し、訪れる市外の人々へも広く伝えるとともに、これらを将来の世代へと引き継いでいきます。									
環境基本計画	№	事務事業名	環境目的	環境目標	今年度の事業	効果を計る指標 (どの水準まで)	実績			H22目標	評価	平成22年度 総括	改善すべき課題	市民等からの意見	担当課
							H20	H21	H22						
							187	189	191						
4-1	77	文化財の保存・整備	指定文化財の保存・整備に努めるとともに指定文化財の増加に努める。	文化財の調査・指定・保存・活用・後継者育成	指定文化財及び歴史的建造物の国の文化財原簿への登録の推進	文化財及び歴史的建造物の国の文化財原簿への登録を2件以上指定				文化財の調査・指定・保存・活用・後継者育成	○	市指定文化財物件(浦野城跡・御射山広庭祭祀跡)について、指定を行うことができた。	・市の指定文化財としてふさわしい物件の指定に向けて調査を行ってきたい。		文化振興課
4-1	79	博物館の運営	歴史・文化を未来に引き継ぐ	歴史・文化的遺産とのふれあいの場の創出	①博物館講座ほか左記のとおり ②観覧券・しおり・ポスター・チラシ等の作成に際して古紙配合紙・大豆油インクを使用する。	①来館者数 ②冊子を除く印刷物に古紙配合紙・大豆油インクを使用する(100%)	来館者数 55873人 古紙配合紙 100% 大豆油インク 指定無し	来館者数 76343人 古紙配合紙 100% 大豆油インク 指定無し	来館者数 68233人 古紙配合紙 100% 大豆油インク 指定無し	歴史・文化的遺産とのふれあいの場の創出 冊子を除く印刷物に古紙配合紙・大豆油インクを使用する(100%)	◎	・企画展、講座、史跡見学会を計画どおりに実施した。 ・入館者は、依然として歴史ブームの中で推移している。			博物館
4-1	79	記念館の運営	歴史・文化を未来に引き継ぐ	歴史・文化的遺産とのふれあいの場の創出	①美術教室ほか左記のとおり ②しおり・チラシ等の作成に際して古紙配合紙・大豆油インクを使用する。	①来館者数 ②冊子を除く印刷物に古紙配合紙・大豆油インクを使用する(100%)	来館者数 31743人 古紙配合紙 100% 大豆油インク 指定無し	来館者数 43300人 古紙配合紙 100% 大豆油インク 指定無し	来館者数 39535人 古紙配合紙 100% 大豆油インク 指定	歴史・文化的遺産とのふれあいの場の創出 冊子を除く印刷物に古紙配合紙・大豆油インクを使用する(100%)	◎	・美術教室、展覧会など計画通りに実施した。 ・新しいパンフレットの作成に際して、大豆油インクを使用した。			博物館

4-1	79	信濃国分寺資料館の運営	歴史・文化を未来に引き継ぐ	①歴史・文化的遺産とのふれあいの場の創出 ②環境にやさしい施設運営(リサイクルを推進し廃棄物の減量を図る)	①史跡見学会ほか左記のとおり ②公園の剪定された樹木のチップ化、落ち葉の腐葉土化など	①来館者数 ②リサイクル率100%	来館者数 12922人 リサイクル率 100%	来館者数 12375人 リサイクル率 100%	来館者数 10816人 リサイクル率 100%	歴史・文化的遺産とのふれあいの場の創出 環境にやさしい施設運営(リサイクルを推進し廃棄物の減量を図る)	◎	・学校出張歴史体験教室(11回) ・親子歴史体験教室は11月末までに8回開催し、延べ189人の親子が参加し、郷土の歴史を知るよい機会になるとともに、親子のふれあいの場となった。			博物館
-----	----	-------------	---------------	--	---	----------------------	----------------------------------	----------------------------------	----------------------------------	--	---	---	--	--	-----

環境基本計画基本目標			歴史や調和を大切にするまち			文化的資源を保存し、古いものを大切にする心を育むとともに、調和のとれた美しいまちなみのあるまちを目指します。									
環 境 保 全 項 目			緑あふれるまちをつくる			緑や花にあふれたうるおいのあるまちづくりを推進していきます。									
環境基本計画	№	事務事業名	環境目的	環境目標	今年度の事業	効果を計る指標 (どの水準まで)	実績			H22目標	評価	平成22年度 総括	改善すべき課題	市民等からの意見	担当課
							H20	H21	H22						
4-2	47	都市計画街路等建設工事	うるおいやゆとりある都市空間の形成	街路樹の植栽を推進します。	南天神町常田線L=0.3kmの植栽工事	施工延長	14.1km	1.4km	0.3km	南天神町常田線 L=0.3km	◎	南天神町常田線 L＝150m (植栽延長 150×2＝300m)			都市計画課
4-2	47	景観形成事業	うるおいやゆとりのある都市空間の形成	生垣設置の補助を行い、緑化の推進を図ります。	・市広報、UCVサンデーうえだ等でのPR ・補助件数15件(予定)	・補助金を出した生垣の延長(本年度延長200m)	延長 147.9m 累計 2297.5m	延長 483.8m 累計 2781.3m	延長 264m 累計 3045.3m	・補助金を出した生垣の延長(本年度延長200m)	◎	・広報うえだ、ホームページでPR ・申請件数20件 ・生垣総延長264m ・交付決定額864,670円	昨年と今年は天神の杜地区からの申請が多かった。天神の杜地区の建設が減少してくる来年度以降は、市全域へのPRをさらに進めていく必要がある。		都市計画課
4-2	48	公園の建設	緑あふれるまちをつくる	公園の整備を促進する。	神畑公園整備 0.54ha 音楽村周辺公園整備 0.58ha	一人当たり都市公園面積を20.00㎡/人目標する。	旧上田地区 開設済都市公園 面積(ha) 161.07 一人当りの都市公園面積(㎡/人) 13.31 旧丸子地区 開設済都市公園 面積(ha) 22.37 一人当りの都市公園面積(㎡/人)	旧上田地区 開設済都市公園 面積(ha) 161.07 一人当りの都市公園面積(㎡/人) 13.31 旧丸子地区 開設済都市公園 面積(ha) 22.54 一人当りの都市公園面積(㎡/人)		一人当たり都市公園面積 20.00㎡/人	△	借地予定の地権者から買取依頼を受け、予算措置等に不測の時間を要したため、工事完成が翌年6月末になった。			公園緑地課
4-2	48	花と緑のまちづくり推進事業の実施(1)	緑あふれるまちをつくる	緑化の推進	・植樹本数 50本 ・花苗配布 100,000本	・公共用地等への植樹本数(50本) ・地域自治会等に配布する花苗本数(100,000本)	植樹(本) 470 花苗配布(本) 107491	植樹(本) 60 花苗配布(本) 131140	植樹(本) 20 花苗配布(本) 131,480	植樹(本) 50 花苗配布(本) 100000	◎	年間131,480本を配布し、目的、目標を達成できた。			公園緑地課
4-2	48	花と緑のまちづくり推進事業の実施(2)	緑あふれるまちをつくる	緑化の推進	・花の種銀行 口座開設者数 710人 ・種から育てる花づくり講習会の開催4回	・花の種銀行会員数(延べ口座開設者 710人) ・花づくり講習会 開催回数 年間4回	花の種銀行 口座開設者数 688 花づくり講習会 開催回数 4	花の種銀行 口座開設者数 745 花づくり講習会 開催回数 3	花の種銀行 口座開設者数 739 花づくり講習会 開催回数 5	花の種銀行 口座開設者数 710 花づくり講習会 開催回数 4	◎	花の種銀行会員の利用率促進			公園緑地課
4-2	48	緑地の保全(染屋台グリーンベルト保全事業)	緑あふれるまちをつくる	緑地の保全	里山体験ボランティア 年5回	市街地近郊の貴重な自然環境を形成している染屋台グリーンベルトを環境保全(地球温暖化防止、ヒートアイランド現象の緩和)の面から積極的に保全をすることから、上記事業を実施し、市民の理解を深める。	里山体験ボランティア 1回	里山体験ボランティア 6回	里山体験ボランティア 12回	里山体験ボランティアを実施することにより、積極的な環境保全の推進を図る。	◎				公園緑地課

環境基本計画基本目標			歴史や調和を大切にするまち			文化的資源を保存し、古いものを大切にする心を育むとともに、調和のとれた美しいまちなみのあるまちを目指します。									
環 境 保 全 項 目			調和のとれた美しい景観を保つ			調和のとれた美しい景観の保全・形成に努めるとともに、美化の推進等マナー向上を推進していきます。									
環境基本計画	№	事務事業名	環境目的	環境目標	今年度の事業	効果を計る指標 (どの水準まで)	実績			H22目標	評価	平成22年度 総括	改善すべき課題	市民等からの意見	担当課
							H20	H21	H22						
4-3	23	ポイ捨て等防止条例に基づく美化活動の推進	調和のとれた美しい景観を保つ	ポイ捨て条例に基づき美化活動を推進します。	環境美化監視員によるパトロール ポイ捨て防止チラシを配布(成人式)	環境美化監視員によるパトロール回数 月3回 ポイ捨て防止啓発チラシの配布最低1回	環境美化監視員によるパトロール(上田地域)934	環境美化監視員によるパトロール(上田地域)955	環境美化監視員によるパトロール(上田地域)1,143	パトロール及びチラシ配布による環境美化の推進	◎	パトロール及びチラシ配布による環境美化の推進を図りました。			生活環境課
4-3	23	ゴミゼロ運動の実施	うるおいやゆとりある都市空間の形成	地域美化活動を推進します	・広報への掲載 ・店内掲示板への掲載 ・ゴミゼロ運動の実施(県下一斉に年1回)…地区別に4回に分けて実施する	参加者人数 10,000人	参加人数9275人	参加人数9336人	参加人数10,489人	参加者人数10,000人	◎	各自治会でゴミゼロ運動を実施。多くの皆さんに参加いただき、地域美化活動を行いました。また、5月30日のゴミゼロ運動の日一斉行動として、環境美化監視委員及び職員による幹線道路のゴミ拾いを行いました。			生活環境課
4-3	23	河川清掃計画・実施	うるおいやゆとりある都市空間の形成	地域美化活動を推進します。	河川清掃 年2回	・矢出沢川・蛭沢川等の主要河川の清掃実施(春・秋2回) ・下水水路の清掃実施(春・秋2回)	春 1 秋 1	春 1 秋 1	春 1 秋 1	矢出沢川・蛭沢川等の主要河川の清掃実施(春・秋2回) 下水水路の清掃実施(春・秋2回)	◎	地元自治会の皆さんにも協力いただき、春と秋に実施しました。			生活環境課
4-3	23	犬猫の糞尿害対策	うるおいやゆとりある都市空間の形成	犬猫の糞尿害等に対する対策を推進します。	犬猫の正しい飼育方法の周知 自治会による周知・看板設置の協力依頼(随時)	苦情件数 39件以下	苦情件数実績23件	苦情件数実績43件	苦情件数実績46件	苦情件数39件以下	△	広報等による周知を行いました。苦情件数を減少させるのは難しく増加となってしまいました。			生活環境課
4-3	44	放置自転車の撤去及び処分	環境にやさしい都市基盤・都市施設の整備	上田駅周辺の放置禁止区域における自転車等の駐車をなくします。	放置禁止区域における警告書の貼付	放置自転車撤去件数 年450台以下	放置自転車の撤去件数(台)311	放置自転車の撤去件数(台)447	警告書貼付3,150件 撤去件数430件	放置自転車撤去件数 年450台以下	◎				管理課
4-3	45	歩道のバリアフリー化	調和のとれた美しい景観を保つ	歩道のバリアフリー化を推進します。	・歩道新設 L=3,420m(うち前年度繰越分)L=1,725m ・繰越分の早期完成を目指し、本年度分の早期発注に心がける。	・工事の完了実績による。	発注実績1461m 完了実績1429m 累 計15379m	発注実績1533m 完了実績1341m 累 計16720m	発注実績1475m 完了実績2650m 累 計19370m	歩道新設L=3,420m(うち前年度繰越分)L=1,725m 繰越分の早期完成を目指す。	○	・計画延長(現年) L=1,695mについて、事業用地等の取得に変更があり、H22延長L=1,475mとなった。 ・上半期の実績に修正がありL=70m完了し、下半期の実績はL=855mで、H21繰越を含めたH22実績合計はL=2,650mで、繰越がL=550mとなった。 ・実績内訳 H21繰越 L=1,725m H22現年 L= 925m H22繰越 L= 550m	・事業用地の取得に難航し、年度内完了が難しい状況にある。 ・前年に用地取得を完了し、翌年に早期発注に努め年度内完了を図る。	上田市身体障害者協会及び老人会より、歩道の新設及び既設歩道のバリアフリー化の要望が強い。	土木課
4-3	47	景観形成事業	うるおいやゆとりある都市空間の形成	景観形成市民団体等の認定	アダプトシステム協定を取り交わす地域住民団体等の検討	景観形成市民団体 アダプトシステム協定団体数及び団体の実績報告による活動数(各1)	アダプトシステム協定団体(累計)14	アダプトシステム協定団体(累計)18	アダプトシステム協定団体(累計)18	アダプトシステム協定を取り交わし、地域住民の自主性によりうるおいやゆとりある都市空間形成を推進する。	△	新たな協定の締結がなかった。	地域住民の自主性に委ねるところが多いが、さらに普及するよう取り組んでいきたい。		都市計画課
4-3	47	景観形成事業	住民協定の締結	住民協定の締結を推進し、優れた街なみの形成を図ります。	住民協定締結の誘導に向け地区の検討	認定数(1)	住民協定の締結(累計)7	住民協定の締結(累計)7	住民協定の締結(累計)7	住民協定の締結(累計)1	△	認定数0	一定の地区内で建築物、広告物等の色彩、大きさ等について、住民が自主的にルールを決めて行こうとする機運が高まってきた地区に対して、協定締結に向け、指導・助言を行いたい。		都市計画課

4-3	47	景観形成事業	景観ウォッチングの実施	市民・事業者に対する景観づくりの意識啓発をします。	景観ウォッチングの実施 2回	景観ウォッチングの実施回数(2回)	景観ウォッチングの実施 2回	景観ウォッチングの実施 2回	景観ウォッチングの実施 2回	景観ウォッチングの実施 2回	◎	・10月16日(土)「見直そう市街地の景観」実施。参加者14人 ・3月12日(土)「景観ウォッチング-丸子編」実施。参加者25人	大変好評であり、景観に関する意識の高揚に貢献しているので、今後も年2回は開催したい。		都市計画課
-----	----	--------	-------------	---------------------------	----------------	-------------------	----------------	----------------	----------------	----------------	---	---	--	--	-------

環境基本計画基本目標			歴史や調和を大切にするまち			文化的資源を保存し、古いものを大切にする心を育むとともに、調和のとれた美しいまちなみのあるまちを目指します。									
環 境 保 全 項 目			調和のとれた美しい景観を保つ			調和のとれた美しい景観の保全・形成に努めるとともに、美化の推進等マナー向上を推進していきます。									
環境基本計画	№	事務事業名	環境目的	環境目標	今年度の事業	効果を計る指標 (どの水準まで)	実績			H22目標	評価	平成22年度 総括	改善すべき課題	市民等からの意見	担当課
							H20	H21	H22						
4-3	47	景観形成事業	長野県屋外広告物条例に違反している電柱等の貼り紙・立看板の撤去	沿道景観の美化と風致を維持します。	違反している貼り紙や立看板を一掃する	立看板の撤去件数、貼り紙の除去件数(各20)	立看板撤去31件 貼り紙除去39件	立看板撤去10件 貼り紙除去66件	立看板撤去2件 貼り紙除去26件	沿道景観の美化と風致の維持	○	・違反広告物撤去65件(はり紙 26件) (立看板 2件) (のぼり旗 37件) ・違反広告物撤去指導6件	違反広告物は減少傾向にあるが、定期的なパトロールを実施する。		都市計画課
4-3	47	景観形成事業	上田市景観計画の策定	良好な景観の形成及び保全を推進するため、上田市景観計画を策定します。	次の会議等を開催し、景観計画案を策定する。 ・素々案に対する意見聴取のための住民説明会の開催。 ・景観審議会、都市計画審議会を開催し、素案の審議。 ・上田市景観計画案の策定。	今年度の事業の具体的な施策や手段の進捗状況	検討	検討	上田市景観計画の策定	上田市景観計画の策定	△	建物の高さに制限をかける手法について、高度地区の現況調査等を踏まえ検討を重ねてきました。高さ制限については、都市計画制度の高度地区において実施するのではなく、景観計画の景観形成基準の中で高さの基準を設けることとしました。	住民説明会等を行い、景観計画素案の策定を進めていく。		都市計画課

環境基本計画基本目標			環境を思いやる人があふれるまち			一人ひとりが普段から環境のことを考え、環境のために行動ができる人々が集まっているまちを目指します。									
環 境 保 全 項 目			環境にやさしい人を育む			市民、事業者がそれぞれ環境を学ぶことができるよう、環境教育の推進を行うとともに、個々の環境に配慮した行動のリーダーシップをとれるような人材育成に努めます。									
環境基本計画	№	事務事業名	環境目的	環境目標	今年度の事業	効果を計る指標 (どの水準まで)	実績			H22目標	評価	平成22年度 総括	改善すべき 課 題	市民等からの 意 見	担当課
							H20	H21	H22						
5-1	6	地域福祉の調整及び推進に関すること	環境にやさしい人を育む 環境にやさしい地域を育む	地域住民等への環境啓発の推進	1 環境啓発に係る住民への 広報・情報提供 2 関係機関・団体等と連携した啓発活動の推進 3 自治会の環境改善要望に対する対応(調査・回答)		啓発活動の実施	啓発活動の実施	啓発活動の実施	啓発活動の推進	○	実施時期が遅れたものの計画した事業は、ほぼ達成されている。			塩田地域自治センター
5-1	7	地域福祉の調整及び推進に関すること	環境教育の推進	地域内の住民や各種団体に向けた環境啓発等の推進	①毎水曜日のリサイクル回収(ビン・缶)時での啓発。 ②地域協議会における地域(環境)課題に対する対応。 「わがまち魅力アップ応援事業」の受付 ③自治会要望の取りまとめと本庁との調整(環境関連) ④ポスター掲示による啓発 ⑤窓口での転入者等へのゴミ回収等の指導	①リサイクル回収の回数 ②環境活動や啓発の数等	啓発活動の実施	啓発活動の実施	啓発活動の実施	啓発活動の推進	◎	毎水曜日にリサイクル回収を実施。地域の皆さんに啓発をした。 ・ポスターでの啓発、また窓口、電話での問合せ者に話しが出来た。 ・自治会等からの環境関連の要望等について本庁等へ連絡、調整をした。	引き続き、啓発活動を継続していく。		川西地域自治センター
5-1	12		環境啓発の実施	環境啓発の実施	①広報うえだを活用した環境啓発活動 ②市公式HPを活用した環境啓発活動	①啓発記事のページ数 ②環境関連記事へのアクセス数	①5ページ ②2,315アクセス	①8ページ ②1403アクセス	①7ページ ②1571アクセス	広報うえだ及び市公式HPを活用した啓発活動	◎	広報うえだ及び市公式HPを活用し環境啓発を行いました。			秘書課
5-1	14	太陽光発電による環境への配慮	太陽光発電による環境への配慮を来館者に周知する	太陽光発電により有害物質を排出しないクリーンなエネルギーが供給できることを来館者に周知する	当センターにある太陽光発電の存在をパネルにより来館者にPRし、太陽光発電では有害物質を排出しないクリーンなエネルギーが供給できることを周知し、環境への配慮を啓発する	①来館者数 36,000人以上 ②社会科見学 10校以上	①来館者数 35716人 ②社会科見学 5校	①来館者数 36262人 ②社会科見学 6校	①来館者数 36,067人 ②社会科見学 12校	①来館者数 36,000人以上 ②社会科見学 10校以上	◎	当センターにある太陽光発電の存在をパネルにより来館者にPRし、太陽光発電では有害物質を排出しないクリーンなエネルギーが供給できることを周知し、環境への配慮を啓発することができました。			マルチメディア情報センター
5-1	21	印刷物等による環境配慮の市民啓発	市民への環境啓発	市民向けパンフレット等に環境啓発文を印刷する	・生活ガイドブックの作成 ・各種申請用紙の作成	・パンフレット内に上田市環境方針を印刷 ・生活ガイドブック内にチームマイナス6パーセントのロゴ印刷 ・再生紙使用の文言印刷	啓発活動の実施	啓発活動の実施	啓発活動の実施	啓発活動の実施	○	・生活ガイドブック作成に当たっては、上田市環境方針及びチャレンジ25のロゴを印刷した。			市民課
5-1	22	女性団体の育成・支援や講座の主催	環境教育の推進	環境に対する意識の啓発を図る(地球温暖化を考慮し、無駄を最小限に抑える工夫)	①女性団体や利用者に対する環境啓発 ・環境に関心のある団体の育成・支援 ・節水節電の呼びかけ(館内掲示・パンフレットへの掲載) ②エコ料理講座の開催 ・地産地消や料理法の工夫により廃棄物の抑制	②参加者の満足度90%以上	100%	100%	100%	90%以上	○	①うえだ市民フェスティバルで参加団体の展示発表において、地球温暖化及び環境汚染等を啓発 ②料理講座において、無添加で地元の材料にこだわり、ゴミを出さない使い切る料理を学んだ			人権男女共同参画課
5-1	23	環境関連情報に関すること(情報の発信)	環境情報システムの整備	環境関連情報を発信します。	・ホームページの作成・更新 ・広報等へ関連記事を掲載 ・各課の通知文書やチラシ等に、環境関連のマーク・文言を加えるよう、機会をとらえて依頼する。	各種機会を捉え、環境について記事をまとめ、大きく広報に載せる。									生活環境課
5-1	23	こどもエコクラブ事業	環境教育の推進	保育園・小学校・中学校及び地域での環境教育・環境学習活動に対し、支援・協力します	こどもエコクラブについての周知 登録クラブへの支援協力	登録クラブ数	登録クラブ数 4	登録クラブ数 8	登録クラブ数 11	保育園・小学校・中学校及び地域での環境教育・環境学習活動に対し、支援・協力	◎	本年は、3クラブが新たに登録し、計11クラブにより活動が行われました。			生活環境課

5-1	23	こどもエコガイド事業	環境教育の推進	保育園・小学校・中学校および地域での環境教育・環境学習活動に対し、支援・協力します。	こどもエコガイド配布		推進	推進	推進	環境教育の推進	◎	こどもエコガイドを利用しての学習が進められ、子供たちの環境への関心が高まったとの情報がありました。			生活環境課
-----	----	------------	---------	--	------------	--	----	----	----	---------	---	---	--	--	-------

環境基本計画基本目標			環境を思いやる人があふれるまち			一人ひとりが普段から環境のことを考え、環境のために行動ができる人々が集まっているまちを目指します。									
環 境 保 全 項 目			環境にやさしい人を育む			市民、事業者がそれぞれ環境を学ぶことができるよう、環境教育の推進を行うとともに、個々の環境に配慮した行動のリーダーシップをとれるような人材育成に努めます。									
環境基本計画	№	事務事業名	環境目的	環境目標	今年度の事業	効果を計る指標 (どの水準まで)	実績			H22目標	評価	平成22年度 総括	改善すべき課題	市民等からの意見	担当課
							H20	H21	H22						
5-1	23	ISO手法の推奨	環境教育の推進	保育園・小学校・中学校および地域での環境教育・環境学習活動に対し、支援・協力します。	保育園・学校等の環境改善活動への支援・協力	情報提供等の支援協力をする	支援・協力	支援・協力	支援・協力	保育園・小中学校および地域での環境教育・環境学習活動への支援・協力	◎	・学校事務担当者研修会等で、環境活動・教育の啓発研修を実施しました。 ・長野大学や、自治会等からの要請を受けて、出前講座を3回行いました。 計約200名の参加があり、環境への関心の高さがうかがえました。			生活環境課
5-1	25	市営住宅の管理	①環境負荷の低減(口座振替の推進、入居者への環境啓発)	事務事業の効率化と環境啓発	①全入居者通知の機会(年2回)に口座振替利用の奨励と環境啓発文を掲載	口座振替率 90.00%以上	口座振率89%	口座振率88.5%	口座振率87%	口座振替率90.00%以上	○	当初計画のとおり、6・3月に全入居者を対象とした通知による口座振替の奨励を行うとともに、定期募集後の新規入居者に対して口座振替の奨励を行った。 口座振替率については、定期募集後の新規入居者は100%、全体では87%という結果になった。			住 宅 課
5-1	28	環境への負荷の低減に係る啓発事業	利用者への環境負荷低減活動の啓発	エコオフィスうえだ推進活動のPRと啓発を兼ねた館内掲示	地球環境保護意識の高揚と同時に点字図書館のランニングコスト削減のため「上田市役所地球温暖化防止実行計画」に基づく環境負荷の低減活動のPRと協力を兼ねた啓発(館内掲示)を行う。			1	1		◎	「上田市役所地球温暖化防止実行計画」に基づく環境負荷の低減活動のPRと協力を兼ねた啓発(館内掲示)を7月に行いました。			点字図書館
5-1	30		環境にやさしい人をはぐくむ	健康講座などや健診(検診)で環境について考える機会を設ける	乳幼児検診、健康教室においてマイボトルの持参によるごみの減量や環境保全の啓発を行う。		啓発活動の実施	啓発活動の実施	啓発活動の実施	啓発活動の実施	◎	健康教室等において、飲み物や上履きを入れる袋を各自持参し、終了後は必ず持ち帰ることとし、ごみの減量を図った。多くの方が、飲み物及び上履き入れを持参してくださり、終了後は持ち帰っていただいている。			健康推進課
5-1	32	環境への負荷の低減に係る啓発事業	利用者への環境負荷低減活動の啓発	エコオフィスうえだ推進活動のPRと啓発を兼ねた館内掲示	地球環境保護意識の高揚と同時に相染閣のランニングコスト削減のため「上田市役所地球温暖化防止実行計画」に基づく環境負荷の低減活動のPRと協力を兼ねた啓発を行う。(館内掲示)		1	1	1		◎	「上田市役所地球温暖化防止実行計画」に基づく環境負荷の低減活動のPRと協力を兼ねた啓発(館内掲示)を6月に行いました。			相染閣
5-1	35	環境にやさしい保育園づくり	環境教育の推進	保育園での環境教育・環境活動を推進し、環境に対する意識啓発を図る	生ごみ処理機を1台追加導入し、生ごみの堆肥化を推進する。 「ぼっくん」を使い、生ごみを土に還す事を環境教育として推進する。	搬出生ごみの減量 堆肥として菜園等での利用 園児・保護者が興味を示すこと	「ぼっくん」を利用した、循環型社会を目指す環境教育の推進	「ぼっくん」を利用した、循環型社会を目指す環境教育の推進	「ぼっくん」を利用した、循環型社会を目指す環境教育の推進	「ぼっくん」を利用した、循環型社会を目指す環境教育の推進	◎	「ぼっくん」を使い、生ごみを堆肥化するとともに、それを菜園に還すことにより、循環型社会を目指す環境教育を推進した。			保育課
5-1	45	交通安全事業(コロベタ大作戦)	環境にやさしい人を育む	市民協働による歩行エリアのカラー舗装を推進し歩行者の安全対策及びコスト縮減を図る。	・カラー舗装 ・10路線 L=3,000m W=0.7～1.0m	・作業の完了実績による。	路線数13 実績(m)2760 累 計4228m	路線数16 実績(m)3140 累 計5696m	路線数12 実績(m)4865 累 計10561m	・カラー舗装 ・10路線 L=3,000m W=0.7～1.0m	◎	・本年度は9路線、L=2,600mを計画したが、実績は12路線、L=4,065mとなった。 ・上半期の実績に修正があり、6路線L=2,330m ・上半期の実績6路線L=1,735m ・H22実績12路線L=4,065mとなった	・改善すべき課題はないが、地域住民の交通安全に対する関心も高く、また手軽にできる歩道空間の確保にもなることから、事業は拡大の方向にある。	生活道路安全性の観点から賛成意見が大多数を占めた。	土木課

5-1	67	環境にやさしい学校づくり事業	環境にやさしい人を育む	学校での環境教育・環境学習活動を推進します	・光熱水費削減の取り組み結果を評価し、環境教育の推進に資するための予算を各学校へ追加配当する。	・光熱水費の削減量 ・学校ISO計画を全小中学校で作成し、実行する	環境教育・環境学習活動の推進	環境教育・環境学習活動の推進	環境教育・環境学習活動の推進	環境教育・環境学習活動の推進	◎	・燃料費の高騰により、使用量は昨年よりやや減少した。 ・各校、実施計画により環境教育、環境改善活動が実施できた。 ・各校の中間報告、光熱水費等を参考に、環境教育用消耗品の購入費を配当した。	・配備済みの雨水タンクが破損、故障等により有効に利用されていない。修繕なども含めて計画的に対応していきたい。		学校教育課
-----	----	----------------	-------------	-----------------------	---	--------------------------------------	----------------	----------------	----------------	----------------	---	--	--	--	-------

環境基本計画基本目標			環境を思いやる人があふれるまち			一人ひとりが普段から環境のことを考え、環境のために行動ができる人々が集まっているまちを目指します。									
環 境 保 全 項 目			環境にやさしい人を育む			市民、事業者がそれぞれ環境を学ぶことができるよう、環境教育の推進を行うとともに、個々の環境に配慮した行動のリーダーシップをとれるような人材育成に努めます。									
環境基本計画	№	事務事業名	環境目的	環境目標	今年度の事業	効果を計る指標 (どの水準まで)	実績			H22目標	評価	平成22年度 総括	改善すべき 課 題	市民等からの 意 見	担当課
							H20	H21	H22						
5-1	68	YAっHOーの発行	環境問題などについて掲載し、子どもや親の意識啓発	環境記事・情報を年1回以上掲載する。	記事・情報として、環境問題などについて掲載し、子どもや親への意識啓発の機会とする。	環境記事・情報を年1回以上掲載する。									生涯学習課
5-1	70	各種講座・里山づくり支援	地域における環境保全活動及び住民への環境啓発の推進	市民の環境に関する意識の啓発を図る。	1 環境教室の実施 ・季節に合わせた料理教室(年10回) ・自然に親しむ講習会(年4回) 2 団体等への支援 ・里山づくり支援事業(年間通じて数回)	・すぐに目に見える効果は期待できないが、住民の環境に対する意識が高くなり、環境に対する意識が高まる。	自然に親しむ講習会 3 季節に合わせた料理教室 10 里山づくり支援事業 6	自然に親しむ講習会 10 季節に合わせた料理教室 3 里山づくり支援事業 6	太郎山虚空蔵山縦走路トレッキング(2回) ・太郎山虚空蔵山縦走路整備整備(2回) ・太郎山虚空蔵山縦走路整備連絡会山岳講演会(1回) ・自然に親しむ講習会(4回) ・季節に合わせた料理教室(12回)	意識啓発	◎	雨天のため、やむなく中止とした環境啓発イベントもあったが、全体的にはおおむね順調に事業を完了し、着実に成果を挙げている。	すぐに、目に見える成果がでる活動ではないが長期に渡るプロジェクトを組んで、目標を達成していく。とりあえず、次年度は地元、太郎山の植生を勉強する講座を新たに開始する予定。		西部公民館
5-1	71	公民館各種講座事務	環境教育の推進	自然観察をテーマとする講座を開催し、市民の環境問題に対する意識の啓発を図る。	自然観察をテーマとした講座の開設:3講座 「公民館だより」を中心に参加者を募集	開催講座数 参加者の満足度	地域発見講座 ごみ減量講座	地域発見講座	自然観察会 料理教室 郷土料理講習会 ごみ減量講座	意識啓発	○	自然観察会を予定どおり実施 ・ 7月21日 姫水平トレッキング ・ 8月25日 北八ヶ岳・亀甲池めぐり ・ 9月15日 軽井沢信濃路自然歩道めぐり ・10月と12月に企業による料理教室に併せてごみ減量講座を実施。 ・11月と3月に郷土料理の講習会に併せてごみ減量講座を実施。			城南解放会館 城南公民館
5-1	72	公民館各種講座事務	環境教育の推進	架橋問題に関する講座を開催し、市民の環境に関する意識の啓発を図ります	自然観察講座 3回 野鳥観察講座 1回 水生生物観察講座 1回 工作教室 1回 人生いきいき講座4回 エコライフ講座 1回	青少年・成人教育で環境に関する講座を開催し、環境に対する意識を高める 目標講座数 延べ11講座 参加者数 200人	自然観察3回、野鳥観察1回、市民大学1回、人生いきいき講座5回、エコライフ講座1回の延べ11講座を開催、延べ215人が参加	自然観察3回、野鳥観察1回、人生いきいき講座5回、エコッキング教室1回の延べ10講座を開催、延べ191人が参加	自然観察講座 2回、野鳥観察講座 1回、水生生物観察講座 1回、工作教室 1回、人生いきいき講座4回 を開催、延べ168人が参加	意識啓発	○	自然観察講座(美ヶ原高原)は雨天のため中止になりました。当初計画をしていたエコライフ講座は、本年度は実施をしなかった。	環境に対する意識を高める講座を更に推進していきたい。		上野が丘公民館
5-1	73	地域デザイン講座①「再発見『塩田の歴史と自然』」	環境教育の推進	環境問題に関する講座を開催し、市民の環境に対しての意識の啓発を図ります。	①「再発見『塩田の歴史と自然』」と題し、気候の特徴から造られた「ため池」が、塩田の人々の歴史・文化(祭り、民話なども含む)・風土・民俗などにも大きな影響を与えて来たことを学部。 ②さらに環境の変化を知っていただき地球温暖化防止に対する行動の第一歩につなげたい。	①参加者延べ人数 1講座20人 @20人*4回 ②参加者の満足度 70% 参加者アンケートの結果から	参加者 6	参加者 11	参加者 8	意識啓発	○	年度末グリーンツーリズムの話しを1回行った。忙しい時期、春休みの時期は人が集まりにくいのか残念な結果となった。			塩田公民館 (解放会館)
5-1	73	地域デザイン講座②「地域に緑の連続性を」	環境教育の推進	環境問題に関する講座を開催し、市民の環境に対しての意識の啓発を図ります。	①「塩田に適した植栽とプロが教える花の育て方～地域に緑の連続性を～」と題し、この土地の気候、風土に適した植栽や緑の連続性との関係を知っていただく。 ②自然環境の大切さを知り、地球温暖化防止への第一歩にしていただく。	①参加者延べ人数 1講座20人 @20人*6回 ②参加者の満足度 70% 参加者アンケートの結果から									塩田公民館 (解放会館)

環境基本計画基本目標			環境を思いやる人があふれるまち			一人ひとりが普段から環境のことを考え、環境のために行動ができる人々が集まっているまちを目指します。									
環 境 保 全 項 目			環境にやさしい人を育む			市民、事業者がそれぞれ環境を学ぶことができるよう、環境教育の推進を行うとともに、個々の環境に配慮した行動のリーダーシップをとれるような人材育成に努めます。									
環境基本計画	№	事務事業名	環境目的	環境目標	今年度の事業	効果を計る指標 (どの水準まで)	実績			H22目標	評価	平成22年度 総括	改善すべき課題	市民等からの意見	担当課
							H20	H21	H22						
5-1	73	「災害発生！夏休みサバイバル訓練！」	未来を担う子どもたちに対し環境の大切さを伝える。	自然環境の大切さを、子どもたちの記憶に残す。	①「災害発生！夏休みサバイバル訓練！」と題し、公民館を避難所と想定し、避難所体験をする。 ②その中で、川等の水から飲み水を確保する訓練を通じ水の大切さを知る。 ③真っ暗な中で手作りランプで過ごし明かりの有難さを感じてもらい地球温暖化防止への一歩とする。	①参加者延べ人数 1講座30人 ②参加者の満足度 70% 参加者アンケートの結果から	参加者 11	参加者 9	参加者 8	子供たちに環境の大切さを伝える	◎	人数が目標に達せず、残念であったが、内容は防災をテーマにし、災害時に対応できるよう今年度は総務庁のカリキュラムを参考に計画しました。ドラム缶風呂や魚つかみ、魚焼きにも挑戦しました。			塩田公民館 (解放会館)
5-1	73	しおだっ子 自然観察ツアー「冬の菅平高原でスノーシューハイキング」	未来を担う子どもたちに対し環境の大切さを伝える。	自然の厳しさ、豊かさを知り自然環境の大切さを子どもたちの記憶に残す。	①信州上田千曲川少年団 NPO法人信州いわなの学校等の市民団体と一緒に、 ②千曲川の支流・川の上流、真田菅平高原で、遊びながら川や自然に親しむ ③自然の厳しさ、豊かさを知り、自然環境の大切さをを感じてもらい記憶に残る機会とする。	①参加者延べ人数 1講座30人 ②参加者の満足度 70% 参加者アンケートの結果から	参加者 6	参加者 27	参加者 9	子供たちに環境の大切さを伝える	◎		毎年参加者が増えてきており、さらに工夫をし、環境を考える場と位置付けたい。		塩田公民館 (解放会館)
5-1	74	公民館各種講座事業	環境教育の推進	環境教育の推進を図り、市民の環境に対する意識の啓発を図る。	1住民環境啓発 2 講座実施 ① 里山講座 6回 定員20人 ② ガーデニング講座 6回 定員26人 ③ 川西子供広場 3回 定員なし ④ 夜の自然観察会 1回 定員なし ⑤ 親子自然観察会 1回 定員16人	1 啓発回数 「ひろば」啓発5回 2 講座参加者 延べ人数250人	講座名 里山 124 ガーデニング 110 環境 54 こども広場 19	講座名 里山 122 ガーデニング 131 環境 40 こども広場 248	講座名 里山 6 ガーデニング 6 こども広場 2	意識啓発	◎	①里山講座 6回目を実施済み ②ガーデニング講座 6回目を実施済み ③川西子供広場 3回中2回を実施済み			川西公民館
5-1	75	環境負荷低減の啓発事業	環境教育の推進	啓発活動を通じて環境保全の理解を深める。	6月の環境月間にあわせ小中学校向けに本の紹介、テーマ本展示コーナーに環境関係の本を展示し、市民に啓発する。11月の図書館まつりでは本のリサイクル市などを行い、本の有効利用を図る。		啓発活動の実施	啓発活動の実施	啓発活動の実施	啓発活動の実施	○	10月開催した上田図書館の本のリサイクル市では準備した3,630冊のうち持帰り2,778冊で426人の入場者があった。12月に開催の上田創造館では1,090冊の準備冊数のうち持帰り895冊で168人の入場者があった。			上田図書館
5-1	76	環境負荷低減の啓発事業	環境教育の推進	本の紹介及び展示	環境月間中、テーマ本コーナーに環境関係の図書類の展示を行う。	展示関連本の貸出数・レファレンス数	啓発活動の実施	啓発活動の実施	啓発活動の実施	啓発活動の実施	○	図書館の資料を利用し、来館者の目にふれやすい場所に環境関係の本を展示し関心を高めることができた。また、年間を通じ環境に関する本の購入を進めた。			上田情報ライブラリー
5-1	77	文化芸術振興事業	チラシ・パンフレット印刷に伴う環境配慮	市民の環境に対する意識の啓発	文化芸術振興事業に関するチラシ・パンフレット等印刷物に環境に対する啓発の文言を加える。	チラシ・パンフレット等印刷物に啓発文言の記載 100%	啓発活動の実施	啓発活動の実施	啓発活動の実施	啓発活動の実施	○	・チラシ・パンフレット等印刷物に啓発文の記載ができなかったものがあった。 ・会場には、自動車は乗り合わせで来てもらうようにチラシに印刷した。	チラシ・パンフレット等印刷物に啓発文の記載を忘れないようにしたい。		文化振興課
5-1	78	環境への負荷の低減に係る啓発事業	歴史・文化を未来に引き継ぐ。地域の歴史・文化・誇りを次世代に伝える。	利用者への環境啓発(掲示)・事務の効率化の推進	「上田市役所地球温暖化防止実行計画」に基づく環境負荷の低減活動のPRと協力を兼ねた啓発(館内掲示)を行う。事務の効率化(納付書の活用)を図る。		啓発活動の実施	啓発活動の実施	啓発活動の実施	啓発活動の実施	◎	啓発文を館内・ホールに掲示事務の効率化	メールの活用等、事務の効率化を推進する。		市民会館

環境基本計画基本目標			環境を思いやる人があふれるまち			一人ひとりが普段から環境のことを考え、環境のために行動ができる人々が集まっているまちを目指します。									
環 境 保 全 項 目			環境にやさしい人を育む			市民、事業者がそれぞれ環境を学ぶことができるよう、環境教育の推進を行うとともに、個々の環境に配慮した行動のリーダーシップをとれるような人材育成に努めます。									
環境基本計画	№	事務事業名	環境目的	環境目標	今年度の事業	効果を計る指標 (どの水準まで)	実績			H22目標	評価	平成22年度 総括	改善すべき 課 題	市民等からの 意 見	担当課
							H20	H21	H22						
5-1	82	自然を守り、環境美化活動	自然を大切に し、環境にやさしい人を育む	利用者への環境啓発	1、周辺の森林下草刈で、樹木の活性化。 2、環境美化啓発 3、利用しやすい施設及び環境づくり。	①利用者数。 ②水道使用量。 ③灯油量削減	啓発活動の実施	啓発活動の実施	啓発活動の実施	啓発活動の実施	◎	周辺の森林下草刈を行い、樹木の活性化を図った。 利用しやすい施設及び環境づくりをすると共に利用者に対し環境美化啓発を行った。			自然運動公園 管理事務所
5-1	83		環境にやさしい人を育む	職員はもとより、市民の代表である議会議員の環境に関する意識の啓発を図る。	①議員への意識啓発	①分別が徹底しているか定期的に会派室のゴミ箱及び議員専用の紙類等の分別ボックスをチェックする。 ②半期ごとに達成度を測る。	啓発活動の実施	啓発活動の実施	啓発活動の実施	啓発活動の実施	○	今年度から議員が個人で出したプラごみ、ペットボトル、缶類はお持ち帰りいただくよう依頼しており、概ね良好だが、上半期では、プラごみ専用ゴミ箱への缶やペットボトル混入が散見される場合があった。 再度徹底をお願いしたところ、個人のごみは、原則個人でお持ち帰りいただくという意識を持っていただけるようになってきた。			議会事務局

環境基本計画基本目標			環境を思いやる人があふれるまち			一人ひとりが普段から環境のことを考え、環境のために行動ができる人々が集まっているまちを目指します。									
環 境 保 全 項 目			環境にやさしい地域を育む			地域全体での積極的な環境保全行動を推進するための基盤づくりとして、市民のパートナーシップ、地域のパートナーシップ、市民・事業者のパートナーシップなどさまざまな地域社会の連携体制の整備を推進していきます。									
環境基本計画	№	事務事業名	環境目的	環境目標	今年度の事業	効果を計る指標 (どの水準まで)	実績			H22目標	評価	平成22年度 総括	改善すべき課題	市民等からの意見	担当課
							H20	H21	H22						
5-2	8	塩田地区有線放送業務	環境に対する意識の向上	身近な環境問題等の番組作成により、地域への関心を高める。	① 昨年度に引き続き中部電力の協力により、『電気の豆知識』の放送を行う。 ② 『環境の時間』と題して月1回の予定で、地域の身近な環境の話題から、番組を作成し放送する。 ③ 『有線放送だより』(隔月発行)に、環境に関する「1口メモ」を記載する。		啓発活動の実施	啓発活動の実施	啓発活動の実施	啓発活動の推進	◎	① 中部電力担当による『暮らしと電気』は、毎月1回収録を依頼し放送。電気に関する消エネ対策などについての番組。番組はうえだ有線放送へテープ提供し放送。 ② 昨年度から引き続き、月1回『環境にやさしい時間』と題して、地域の身近な環境への取組みを題材に番組を作成し放送。 ③ 『有線放送だより』に、一口エコメモとして『ちょこっと・エコ』を掲載し、環境問題を考えている。 このような取組みにより、地域住民に理解され効果が上がっている。			塩田地区有線放送所
5-2	23	うえだ環境市民会議に関する事務	パートナーシップの構築	うえだ環境市民会議を開催し、市民、事業者、行政とのパートナーシップにより環境改善活動を推進します	うえだ環境市民会議の開催	環境改善活動への支援・協力活動が円滑にできること		駅前清掃3回 うえだ環境市民会議 3回 視察見学 1回 レジ袋削減	環境講演会 4月 2月 うえだ環境市民会議 5月 駅前清掃 6月 8月 10月 うえだ環境フェア参加 10月 環境視察研修 11月	市民、事業者、行政とのパートナーシップにより環境改善活動を推進します	◎	体験学習としての駅前清掃、視察見学等を行い、環境改善活動を推進しました。			生活環境課
5-2	36	国際規格審査登録事業助成金	環境にやさしい地域を育む	ISO14000などの事業者に対する環境マネジメントシステムに対して情報を提供し、事業者を応援します。	事業者への補助事業制度の周知	交付要綱に適合する申請事業者に対してはすべて補助金を交付する。	交付件数 1件			事業者への補助事業制度について周知	○				商工課

環境基本計画基本目標			環境を思いやる人があふれるまち			一人ひとりが普段から環境のことを考え、環境のために行動ができる人々が集まっているまちを目指します。									
環 境 保 全 項 目			環境活動を発信する			これらの恵まれた自然資源を活かし、市内だけでなく市外の人へも環境とのふれあいの場を提供することで、環境活動の発信・普及啓発に努めていきます。									
環境基本計画	№	事務事業名	環境目的	環境目標	今年度の事業	効果を計る指標 (どの水準まで)	実績			H22目標	評価	平成22年度 総括	改善すべき課題	市民等からの意見	担当課
							H20	H21	H22						
5-3	14	地域映像のデジタル化	地域映像のデジタル化による自然環境保護、歴史・文化資源の保全・活用を啓発する	地域映像のデジタル化による自然環境保護、歴史・文化資源の保全・活用を啓発する	①地域映像をデジタル化しコンテンツ作りをする ②インターネット、地域イントラネット、出前上映会にて地域映像を情報発信する	①地域映像コンテンツ作り 1作品以上 ②HPアクセス数 150,000回以上 ③VODアクセス数 300回以上 ④出前上映会 24回以上	HPアクセス数 132178回 VODアクセス数 1745回 出前上映会 28回	HPアクセス数 162475回 VODアクセス数 377回 出前上映会 24回	地域映像コンテンツ作り 3作品 HPアクセス数 132,495回 VODアクセス数 76回 出前上映会 19回	地域映像コンテンツ作り 1作品以上 HPアクセス数 150,000回以上 VODアクセス数 300回以上 出前上映会 24回以上	○	地域映像コンテンツ作りは3作品作成することができました。			マルチメディア情報センター

環境基本計画基本目標			安全で安全に暮らせるまち			空気や水、土などが汚染されず、安全で健康かつ快適に過ごしていけるまちを目指します。									
環 境 保 全 項 目			さわやかな空気と静けさを確保する			自動車走行に伴う大気汚染や騒音・振動に関する対策を継続的に進めるとともに、一般家庭での野焼きの低減や事業所等からの大気汚染や騒音・振動の防止などにより、さわやかな空気と静かな暮らしの確保に努めます。									
環境基本計画	№	事務事業名	環境目的	環境目標	今年度の事業	効果を計る指標 (どの水準まで)	実績			H22目標	評価	平成22年度 総括	改善すべき課題	市民等からの意見	担当課
							H20	H21	H22						
1-1	2	市営住宅の管理	安全で健康に暮らせるまち	さわやかな空気と静けさを確保する。	苦情件数の削減の推進	苦情件数の削減の推進	苦情件数の削減の推進	苦情件数の削減の推進	苦情件数の削減の推進	◎	上半期に騒音の苦情が1件あった。対応としては、10月から4回ほど訪問し状況を確認してきた。また、高齢者支援係・包括支援センターの職員も訪問し連携し対応してきた。本人の被害妄想によることと思われるが、今のところ苦情は寄せられていない。				丸子市民生活課 市民サービス担当 (住宅部門)

環境基本計画基本目標			安全で安全に暮らせるまち			空気や水、土などが汚染されず、安全で健康かつ快適に過ごしていけるまちを目指します。									
環 境 保 全 項 目			きれいな水と安全な土壌を確保する			河川や地下水、またそれらを取り巻く土壌の汚染を防止し、きれいな水と安全な土壌環境の確保に努めます。									
環境基本計画	№	事務事業名	環境目的	環境目標	今年度の事業	効果を計る指標 (どの水準まで)	実績			H22目標	評価	平成22年度 総括	改善すべき課題	市民等からの意見	担当課
							H20	H21	H22						
1-2	2	河川パトロールの実施	うるおいやゆとりある都市空間の形成	地域美化活動を推進します。	河川パトロールに伴う河川清掃 年2回	依田川等の河川パトロール・清掃実施 年2回(春・秋)	地域美化活動の推進	地域美化活動の推進	地域美化活動の推進	地域美化活動の推進	◎	春・秋それぞれ1回 予定通り実施した。	継続して実施する。		丸子市民生活課 市民サービス担当 (環境部門)
1-2	2	合併処理浄化槽設置整備事業	きれいな水と安全な土壌を確保する	公共下水道・農業集落排水の整備区域外において、合併処理浄化槽の設置を促進します。	申請に対する補助金の交付	合併処理浄化槽設置整備事業での設置4基	設置基数 (基) 2 設置基数累計 (基) 131	設置基数 (基) 2 設置基数累計 (基) 133	設置基数 (基) 0 設置基数累計 (基) 133	設置基数 (基) 4 設置基数累計 (基) 137	△	年度内に設置申請なし	・設置は個人の資金事情によるため、計画どおりに促進することは難しいが、次年度以降も引き続き促進を図っていく。		丸子市民生活課 市民サービス担当 (生活部門)
1-2	7	排水設備の普及促進	水質の保全	下水道の早期接続			普及促進活動	普及促進活動	普及促進活動	普及促進活動	○	下水道の早期接続のPR活動は、予定通り出来たが、景気の低迷のため、新規の接続が185戸で、目標の200に届かなかった。			丸子上下水道課(業務係)
1-2	19	上水道事業、公共下水道事業、農業集落排水事業	きれいな水と環境保全を確保	上水道事業、公共下水道事業、農業集落排水事業を推進する	○処理場の整備 ①菅平浄化センター改築更新工事 ②農集処理場の維持管理	○処理場の整備 ①管理棟耐震補強・改築更新工事 ②処理場沈砂池棟及び調整槽設備更新の実施設計	事業の推進	事業の推進	事業の推進	事業の推進	○	菅平浄化センターH22工事及び委託について、管理棟改築更新及び耐震化工事は完成。 沈砂池棟改築更新実施設計委託は、一部翌年度へ繰越。			真田上下水道課
1-2	22	合併処理浄化槽設置整備事業	きれいな水と安全な土壌を確保する	公共下水道・農業集落排水の整備区域外において、合併処理浄化槽の設置を促進します。	申請に対する補助金の交付	合併処理浄化槽設置整備事業での新設1基									武石市民生活課
1-2	26	水洗化率の向上					普及促進活動	普及促進活動	普及促進活動	普及促進活動	◎				武石上下水道課

環境基本計画基本目標			安全で安全に暮らせるまち			空気や水、土などが汚染されず、安全で健康かつ快適に過ごしていけるまちを目指します。									
環 境 保 全 項 目			有害化学物質による汚染を未然に防止する			私たちの安全な暮らしを確保するために、有害化学物質による環境汚染の防止に努めます。									
環境基本計画	№	事務事業名	環境目的	環境目標	今年度の事業	効果を計る指標 (どの水準まで)	実績			H22目標	評価	平成22年度 総括	改善すべき課題	市民等からの意見	担当課
							H20	H21	H22						
1-3	18	防火対象物(内危険物及び少量危険物施設)及び危険物施設の立入・届出検査及び広報活動	危険物漏洩事故をなくす。	危険物施設からの漏洩事故をなくすために、取扱者としての意識の向上を図る。	1立入検査の実施 ① 2届出検査の実施 ② 3予防広報の実施 ③	危険物漏洩事故ゼロ ① 17 件 ② 11 件 真田有線放送を利用した油漏洩事故防止の広報 (秋季、冬季、春季) ③ 0 回	油漏洩事故 6件 危険物施設検査 34回 有線広報 -	油漏洩事故 6件 危険物施設検査 25回 有線広報 -	油漏洩事故 4件 危険物施設検査 42回 有線広報 0回	立入検査の実施 17件 届出検査の実施 11件 予防広報の実施	○	地下貯蔵タンクの消防法令改正と市内で生じた給油所の大量漏油事故等により向こう2年間で全危険物施設の立入検査を実施することとなり23年2月から毎月実施の方向となり、年度計画に追加された。 年間を通しての立入検査、届出検査については達成されたが、広報については、灯油使用時期の秋冬春に有線広報の計画を立てたが実施できず例年度並みの広報活動に留まってしまった。	有線による広報については次年度改めて計画し、実施に漕ぎ着け、各家庭、事業所等における漏油事故の抑制を図って行きたい。		真田消防課

環境基本計画基本目標			自然・いきもの・人が共生するまち			市の環境を代表する里山や森林などの豊かな自然を保全し、ふれあいの場をもつことで、自然との共存を目指します。									
環 境 保 全 項 目			森や里山を守り・親しむ			上田市の特徴でもある豊かな森林や里山を未来の世代に引き継いでいくため、これらに親しみ、触れ合う機会を創出し、多くの人が保全活動に参画していくことを目指します。									
環境基本計画	№	事務事業名	環境目的	環境目標	今年度の事業	効果を計る指標 (どの水準まで)	実績			H22目標	評価	平成22年度 総括	改善すべき課題	市民等からの意見	担当課
							H20	H21	H22						
2-1	14	アレチウリ、ブタクサ駆除	自然保全・活用	真田地域全域でアレチウリ、ブタクサ駆除活動を推進します。	アレチウリ、ブタクサ駆除の実施	地域内の河川、公共道路の一斉駆除 私有地の所有者への駆除指導	自然環境の保全	自然環境の保全	自然環境の保全	自然環境の保全	○		継続的な取り組みが必要。		真田市民生活課

環境基本計画基本目標			自然・いきもの・人が共生するまち			市の環境を代表する里山や森林などの豊かな自然を保全し、ふれあいの場をもつことで、自然との共存を目指します。									
環 境 保 全 項 目			水辺環境を守り・親しむ			これらの豊かな環境を保全していくため、健全な河川環境を確保し、身近な水辺環境を市民自らが親しみ、学びの場とすることにより、水辺環境の保全を推進していきます。									
環境基本計画	№	事務事業名	環境目的	環境目標	今年度の事業	効果を計る指標 (どの水準まで)	実績			H22目標	評価	平成22年度 総括	改善すべき課題	市民等からの意見	担当課
							H20	H21	H22						
2-2	4	多自然型水路整備	自然・生き物・人が共生するまち	農業用用水路において、環境に配慮した工法を推進します。	多自然型水路を1ヶ所整備する。	実績数値による。	農業用用水路において、環境に配慮した工法の推進	農業用用水路において、環境に配慮した工法の推進	農業用用水路において、環境に配慮した工法の推進	農業用用水路において、環境に配慮した工法の推進	△	・1自治会と協議を進めてきたが、用水受益者と地域住民との調整に時間を要し、未了となったが、引き続き関係者と協議していきたい。	引続き設置に向け調整したい。		丸子産業観光課(土地改良係)
2-2	22	河川水質調査及び検査	きれいな水の確保	定期的な調査により、河川水質の環境基準の達成について監視します。	市内河川の調査地点について、河川の状況を把握するため水質調査を実施する。 余里自治会からの要望による河川水質調査の実施	市内4地点で実施 指定箇所1地点で実施									武石市民生活課
2-2	24	多自然型水路整備	自然の保全・活用	農業用用水路において、環境に配慮した工法を推進します。	多自然型水路を一箇所整備する。	多自然型水路を一箇所整備する。									武石産業観光課
2-2	25	河川改修事業	安全で自然にやさしい地域づくり	自然と調和した河川整備と地域防災を一体的に推進する。	・(普)所沢川 河川改修 L=40.0mの早期発注を目指す	完了実績による。	単年度実績 105,8m 累 計 262,6m	単年度実績 35.2m 累 計 297.8m	単年度実績 40.0m 累 計 337.8m	河川整備と地域防災の推進	◎	当初計画どおり進捗 H23.3.8工事完了検査	H27完成を目指す。	付近一帯は、新興住宅地化しており、安心して生活できる地域づくりが課題である。	武石建設課

環境基本計画基本目標			自然・いきもの・人が共生するまち			市の環境を代表する里山や森林などの豊かな自然を保全し、ふれあいの場をもつことで、自然との共存を目指します。									
環 境 保 全 項 目			農環境を守り・親しむ			自然資源としての農環境を保全するため、農地と触れ合う機会を創出し、担い手育成を含め、持続可能な農業を積極的に推進していきます。									
環境基本計画	№	事務事業名	環境目的	環境目標	今年度の事業	効果を計る指標 (どの水準まで)	実績			H22目標	評価	平成22年度 総括	改善すべき 課 題	市民等からの 意 見	担当課
							H20	H21	H22						
2-3	16	担い手への農地の利用集積による優良農地の確保	農地の保全・活用	農地の保全・活用を図る。(数値目標 平成22年度 12ha)	担い手農家への農地の利用集積の促進	農用地流動化促進奨励金対象面積 21年度末 11.7ha →22年度目標 12ha	農用地流動化促進奨励金対象面積 4.2ha	農用地流動化促進奨励金対象面積 11.7ha	農用地流動化促進奨励金対象面積 142.9ha	農用地流動化促進奨励金対象面積 12ha	◎	H22はダボス牧場の133.9haの契約更新があり急増した。			真田産業観光課(農林振興係)

環境基本計画基本目標			地域資源を活かし地球にやさしいまち			自然由来のエネルギー資源を有効活用し、継続的な資源の確保と地球環境にやさしいまちを目指します。									
環 境 保 全 項 目			地球温暖化防止活動を推進する			地球環境の保全のため、地球温暖化防止に関する活動を積極的に推進していきます。									
環境基本計画	№	事務事業名	環境目的	環境目標	今年度の事業	効果を計る指標 (どの水準まで)	実績			H22目標	評価	平成22年度 総括	改善すべき 課 題	市民等からの 意 見	担当課
							H20	H21	H22						
3-2	1	グリーン購入の実施	地域資源を活かし地球にやさしいまちづくりを行う	上田市の環境目標「地域資源を活かし地球にやさしいまち」を実現するため、グリーン購入率を高めます	物品調達におけるグリーン購入の推進	物品調達におけるグリーン購入率を88%以上とする。	グリーン購入率 88.00%	グリーン購入率 84.95%	グリーン購入率 87.6%	物品調達におけるグリーン購入率を88%以上	○	平成22年度グリーン購入推進状況(購入率87.6%) グリーン購入調査による			丸子地域振興課
3-2	1	消費電力量の削減	地球温暖化防止のための温室効果ガス排出の削減を図る	上田市の環境目標「地域資源を活かし地球にやさしいまち」を実現するため、温室効果ガス排出削減を進めます	庁舎の電力消費量削減	前年度実績の1%減	温室効果ガス排出の削減 318,635KWh	温室効果ガス排出の削減 319,136KWh	温室効果ガス排出の削減	温室効果ガス排出の削減	○	◎OA等の不使用電源のスイッチ等を切る。不要照明の消灯等の推進 ※エレベーター休日停止実施 ※ 選挙による期日前投票事務(休日夜間等の照明と空調の可動)) 及び休日受付業務の増加により例年使用量より48000kWh増 ※前項の使用量を除くと予定どおり (推定315000kwh)			丸子地域振興課
3-2	1	丸子地域自治センター関連施設の可燃ごみ削減	地球温暖化防止のための温室効果ガス排出の削減を図る	上田市の環境目標「地域資源を活かし地球にやさしいまち」を実現するため、温室効果ガス排出削減を進めます	丸子地域自治センター関連27施設の可燃ごみ削減	前年度実績の1%減 (34,560kg)	可燃ごみ削減 30,540kg	可燃ごみ削減 34,910kg	可燃ごみ削減 28,440k g	可燃ごみ削減	◎	紙類等分別の徹底によるリサイクルの推進により可燃ごみの削減を実施			丸子地域振興課
3-2	1	集中管理車のガソリン及び軽油の使用量の削減	二酸化炭素の排出を抑制し地球温暖化の防止	上田市の環境目標「地域資源を活かし地球にやさしいまち」を実現するため、ガソリン及び軽油の使用量の削減を目指す	集中管理車11台のガソリン及び軽油の使用量の削減	昨年度実績の1%減 ガソリン使用量3,110L 軽油5,100L	ガソリン使用実績 4599L 軽油使用実績 5658L	ガソリン使用実績 3782L 軽油使用実績 5658L	ガソリン使用実績 前年度比13.6%増 軽油使用実績 前年度比4.4%増	ガソリン及び軽油の使用量の削減を目指す	○	21年度よりバス・及びトラック・集中管理車の運行時間の増 (21年度より学校行事・災害等の増) によるガソリン・軽油の消費増の分を考慮するとほぼ達成			丸子地域振興課
3-2	2	エコオフィスうえだ	コピー用紙使用の削減等による環境配慮	「エコオフィスうえだ」に基づき、コピー用紙使用の削減を図る。		平成22年度コピー枚数：27,000枚 (平成21年度比 5%削減目標)									丸子市民生活課 市民サービス担当 (税務・収納部門)
3-2	2	エコオフィスうえだ	可燃ごみの抑制による環境への配慮	「エコオフィスうえだ」に基づき、資源化率の向上を図る。		平成22年度：95% (平成22年度目標数値)									丸子市民生活課 市民サービス担当 (税務・収納部門)

環境基本計画基本目標			地域資源を活かし地球にやさしいまち			自然由来のエネルギー資源を有効活用し、継続的な資源の確保と地球環境にやさしいまちを目指します。									
環 境 保 全 項 目			地球温暖化防止活動を推進する			地球環境の保全のため、地球温暖化防止に関する活動を積極的に推進していきます。									
環境基本計画	№	事務事業名	環境目的	環境目標	今年度の事業	効果を計る指標 (どの水準まで)	実績			H22目標	評価	平成22年度 総括	改善すべき課題	市民等からの意見	担当課
							H20	H21	H22						
3-2	2	エコオフィスうえだ	申告システムの更新による環境への配慮	「エコオフィスうえだ」に基づき、エラー表示用紙の削減、電気使用量の削減を図る。		平成22年度：95% (平成22年度目標数値)									丸子市民生活課 市民サービス担当 (税務部門)
3-2	2	丸子地域消費生活展の開催	廃棄物の減量と資源再利用の促進	各種団体と協力して、廃棄物の減量と資源再利用の促進に努めます。	丸子地域消費生活展の開催 (委託) 11月21日(日)	アンケートによる来場者満足度90%以上 来場者予定数 600人	満足度94% 来場者数630人	満足度92.4% 来場者数624人	満足度96% 来場者数570人	満足度90%以上 来場者数600人	◎	来場者満足度については目標数値、前年度比とも大幅に上回ることができた。	次年度は来場者数の増加にも努めたい。		丸子市民生活課 市民サービス担当 (生活部門)
3-2	2	市営住宅の管理	地域資源を活かし地球にやさしいまち	地球温暖化防止を推進する。	・住宅車輛のガソリン1%削減		地球温暖化防止の推進	地球温暖化防止の推進	地球温暖化防止の推進	住宅車輛のガソリン1%削減	◎	前年度と比較し3.4%の削減が図られ、目標を達成できた。			丸子市民生活課 市民サービス担当 (住宅部門)
3-2	4	環境保全事業	地球温暖化防止活動を推進する	ISO14001などの事業者に対する環境マネジメントシステムに関して情報を提供し、事業者を支援する。	工業3団体へ説明会の開催 団体会員への「工振ニュース」で取得支援の情報を年2回提供する。	参加者1回で30社40人	参加企業49社 参加者49人 取得企業25社 累計25社	参加企業50社 参加者90人 取得企業0 累計25社	参加企業35社 参加者50人 取得企業0 累計25社	参加者1回で30社40人	○	丸子工業振興会・上田市商工会工業部会について説明会の開催は、予定どおり出来たが経済状態がまだ完全に回復しないため、安くない取得費用がネックとなり取得する企業はなかった。	世界的な景気の回復と円高の解消が考えられる。		丸子産業観光課(商工観光係)
3-2	21	消費電力量の削減	地球温暖化防止のための温室効果ガス排出の削減を図る	温室効果ガス排出削減を進める	庁舎の電力消費量削減	前年度実績の1.2%減	85,825Kwh	91,462Kwh	87585Kwh	目標数値89277Kwh	◎				武石地域振興課
3-2	21	庁用車のガソリン及び軽油使用量の削減	二酸化炭素の排出を抑制し地球温暖化の防止	ガソリン及び軽油の使用量削減	ガソリン及び軽油の使用量の削減	前年度実績の1.2%減	ガソリン8571.33L 軽油2362.28L	ガソリン8306.80L 軽油2107.99L	ガソリン8294.27L 軽油1772.49L	目標数値ガソリン9732L 軽油2207L	◎				武石地域振興課
3-2	22	ごみ減量、再資源化対策事業	廃棄物の減量と資源再利用の促進	廃棄物を減量及びリサイクルの推進	・生ごみ減量化機器等購入に対する補助金 ・資源物回収カレンダー全戸配布 ・河川への不法投棄防止啓発ビラの全戸配布										武石市民生活課
3-2	22	太陽光発電・太陽熱利用施設設置補助	エネルギーの有効利用	新エネルギー・省エネルギーに関する補助や情報提供を進めます。	新エネルギー活用施設に対する補助金交付	目標 10件									武石市民生活課
3-2	22	エコオフィスうえだ	コピー用紙使用の削減等による環境配慮	「エコオフィスうえだ」に基づき、コピー用紙使用の削減を図る。		平成22年度コピー枚数：27,000枚 (平成21年度比5%削減目標)									武石市民生活課

環境基本計画基本目標			地域資源を活かし地球にやさしいまち			自然由来のエネルギー資源を有効活用し、継続的な資源の確保と地球環境にやさしいまちを目指します。									
環 境 保 全 項 目			地球温暖化防止活動を推進する			地球環境の保全のため、地球温暖化防止に関する活動を積極的に推進していきます。									
環境基本計画	№	事務事業名	環境目的	環境目標	今年度の事業	効果を計る指標 (どの水準まで)	実績			H22目標	評価	平成22年度 総括	改善すべき課題	市民等からの意見	担当課
							H20	H21	H22						
3-2	22	エコオフィスうえだ	可燃ごみの抑制による環境への配慮	「エコオフィスうえだ」に基づき、資源化率の向上を図る。		平成22年度：95% (平成22年度目標数値)									武石市民生活課
3-2	22	エコオフィスうえだ	申告システムの更新による環境への配慮	「エコオフィスうえだ」に基づき、エラー表示用紙の削減、電気使用量の削減を図る。		平成22年度：95% (平成22年度目標数値)									武石市民生活課

環境基本計画基本目標			地域資源を活かし地球にやさしいまち			自然由来のエネルギー資源を有効活用し、継続的な資源の確保と地球環境にやさしいまちを目指します。									
環 境 保 全 項 目			地域資源を有効利用する			自然由来のエネルギー資源を有効活用し、継続的な資源の確保と地球環境にやさしいまちを目指します。									
環境基本計画	№	事務事業名	環境目的	環境目標	今年度の事業	効果を計る指標 (どの水準まで)	実績			H22目標	評価	平成22年度 総括	改善すべき課題	市民等からの意見	担当課
							H20	H21	H22						
3-3	1	公共工事コスト削減調査	地域資源を活かし、環境に配慮した公共工事を実施します	上田市の環境目標「地域資源を活かし地球にやさしいまち」を実現するため、公共工事コスト削減調査を実施するとともに、その結果を周知し、更なるコスト削減を呼びかけます	平成21年分公共工事コスト削減調査の実施	公共工事コスト削減 7.00%	公共工事コスト削減	公共工事コスト削減	公共工事コスト削減	地域資源を活かし、環境に配慮した公共工事を実施	○	公共工事実施担当課にてコスト削減を実施(建設工事)			丸子地域振興課
3-3	22	雨水貯留施設の普及啓発事務	水資源の保全	雨水貯留施設に関する補助や情報提供を進めます。	雨水貯留施設に対する補助の実施	補助金交付件数 2件									武石市民生活課

環境基本計画基本目標			歴史や調和を大切にするまち			文化的資源を保存し、古いものを大切にすることを育むとともに、調和のとれた美しいまちなみのあるまちを目指します。									
環 境 保 全 項 目			緑あふれるまちをつくる			緑や花にあふれたうるおいのあるまちづくりを推進していきます。									
環境基本計画	№	事務事業名	環境目的	環境目標	今年度の事業	効果を計る指標 (どの水準まで)	実績			H22目標	評価	平成22年度 総括	改善すべき課題	市民等からの意見	担当課
							H20	H21	H22						
4-2	5	花いっぱい運動参加者の増加	緑あふれるまちをつくる	住民参加による道路沿い等地域の緑化を図る。	1住民参加のための施策検討 2住民参加による緑化 3住民環境啓発	新規団体受付、植栽場所検討 住民による花苗植栽 3,500人 コンクールへの参加 球根植栽団体講習会への参加	新規団体2 花苗植栽参加人数2143 コンクール応募団体14(個人1) 球根植栽参加団体16 講習会受講者29	新規団体1 花苗植栽参加人数3460 コンクール応募団体19(2) 球根植栽参加団体17 講習会受講者25	新規団体1 花苗植栽参加人数2838 コンクール応募団体14 球根植栽参加団体14 講習会受講者31	住民参加による道路沿い等地域の緑化を図る	◎				丸子建設課(管理係)

4-2	5	住民参加型 による花壇 管理	緑あふれる まちをつくる	丸子ベルパークの花壇をボラ ンティア参加者により管理して もらい花などの情報を交換し 合う場を提供する。	ボランティアによる花壇管理	ボランティア参加者 240人	参加人数 223人	参加人数 236人	参加人数 200人	ボランティア 参加者 240人	◎				丸子建設課 (管理係)
-----	---	----------------------	-----------------	---	---------------	----------------	--------------	--------------	--------------	--------------------	---	--	--	--	----------------

環境基本計画基本目標			歴史や調和を大切にすまち			文化的資源を保存し、古いものを大切にす心を育むとともに、調和のとれた美しいまちなみのあるまちを目指します。									
環 境 保 全 項 目			調和のとれた美しい景観を保つ			調和のとれた美しい景観の保全・形成に努めるとともに、美化の推進等マナー向上を推進していきます。									
環境基本計画	No	事務事業名	環境目的	環境目標	今年度の事業	効果を計る指標 (どの水準まで)	実績			H22目標	評価	平成22年度 総括	改善すべき課題	市民等からの意見	担当課
							H20	H21	H22						
4-3	2	ポイ捨て条例に基づく美化活動の推進	調和のとれた美しい景観を保つ	ポイ捨て条例に基づき美化活動を推進します。	環境美化監視員によるパトロール	パトロール回数 4班 月3回	美化活動の推進	美化活動の推進	美化活動の推進	美化活動の推進	◎	環境美化監視員によるパトロールを予定通り実施した。	継続して実施する。		丸子市民生活課 市民サービス担当 (環境部門)
4-3	2	犬猫の糞尿害対策	うるおいやゆとりのある都市空間の形成	犬猫の糞尿害に対する対策を推進します。	犬猫の正しい飼育方法の周知自治会による周知や看板設置の協力依頼(随時)	苦情件数 15件以下	苦情件数 13件	苦情件数 7件	苦情件数 5件	苦情件数 15件以下	◎	前年度に比べ、苦情件数は2件減となった。	今後も更に飼育方法の周知や看板設置を進めたい。		丸子市民生活課 市民サービス担当 (生活部門)
4-3	16	天然素材利用農道・水路整備	日本の原風景を楽しめるまち	農道、農業用用水路において、環境に配慮した天然素材を利用する工法を推進します。	天然素材を利用した農道・水路を整備する。	農道・水路整備における天然素材を利用を5箇所以上採用する。	天然素材を利用する工法の推進	天然素材を利用する工法の推進	天然素材を利用する工法の推進	天然素材を利用する工法の推進	◎	災害復旧工事の殆どを天然素材で施工を行い、目標を推進することが出来た。	更に工法等の検討を行う必要がある。		真田産業観光課(土地改良係)
4-3	17	道路建設工事(歩道設置)	人にやさしいまちづくり	歩道設置を推進します	・歩道新設 L=200m (今年度の事業であるが菅平での施工となる為、歩道完成は来年度となる。)	・工事の完了実績による。 (今年度については、工事発注であり歩道完成は来年度となる為、数値での評価が出来ない)	-	実施	実施	実施	○	当初9月の発注の予定だったが、8月2日の豪雨災害による災害復旧を優先させたため、1月の発注になる。 計画欄及び上半期の状況のとおり今年度は、工事発注まで完了しているが、実際の歩道完成は来年度となる。23年度に達成予定。	菅平での事業の為、夏及び冬季間に工事が出来なく繰越となり年度末での評価が難しい。		真田建設課
4-3	22	犬猫の糞尿害対策	うるおいやゆとりのある都市空間の形成	犬猫の糞尿害等に対する対策を推進します。	犬猫の正しい飼育方法の周知 オフトーク放送による周知(随時)										武石市民生活課
4-3	22	ポイ捨て条例に基づく美化活動の推進	調和のとれた美しい景観を保つ	ポイ捨て条例に基づき美化活動を推進します。	環境美化監視員によるパトロール月2回 不法投棄防止チラシ等の配布										武石市民生活課
4-3	25	道路整備事業	観光アクセス道路の環境改善	小沢根線の舗装改良整備を推進する。	・舗装改良 L=800.0mの早期発注 H26年度中の全線完成を目指す。	完了実績による。	単年度実績 852m 累 計 1454m	単年度実績 911m 累 計 2365m	単年度実績 800m 累 計 3165m	舗装改良整備の推進	◎	概、当初計画どおり完了 H22.12.13工事完成検査	H26、整備完了を目指す。	安全、安心の道路環境を確保するため、道路機能の整備を推進する。	武石建設課
4-3	25	公園維持管理	緑と自然空間の確保	良好な自然環境を保全し、市民が身近に親しむことができる環境づくりに努める。	・ともしび公園・武石公園・河川公園 ・景観・除草作業、安全管理等の維持管理。 ・公園の利用マナーの厳守。	管理実績による。	自然環境の保全	自然環境の保全	自然環境の保全	自然環境の保全	◎	当初計画どおり、完了済	ゴミ処理を始め、利用者のマナー厳守向上。	近年、地球温暖化等による自然への関心は高まるなかで、身近にある緑、川を守り自然の恵みを活用できる環境づくり。	武石建設課

環境基本計画基本目標			環境を思いやる人があふれるまち			一人ひとりが普段から環境のことを考え、環境のために行動ができる人々が集まっているまちを目指します。									
環 境 保 全 項 目			環境にやさしい人を育む			市民、事業者がそれぞれ環境を学ぶことができるよう、環境教育の推進を行うとともに、個々の環境に配慮した行動のリーダーシップをとれるような人材育成に努めます。									
環境基本計画	No	事務事業名	環境目的	環境目標	今年度の事業	効果を計る指標 (どの水準まで)	実績			H22目標	評価	平成22年度 総括	改善すべき課題	市民等からの意見	担当課
							H20	H21	H22						
5-1	2	女性団体の育成・支援や講座の主催	環境教育の推進	環境に対する意識の啓発を図る(地球温暖化を考慮し、無駄を最小限に抑える工夫)	女性団体に対する環境啓発 ・環境学習の計画・支援 ・省エネ等エコ生活への呼びかけ イベントにおける市民への環境啓発	女性団体に対する環境啓発 ・環境学習は理事のみならず各団体会員に呼びかける ・省エネ等エコ生活への呼びかけと実践 イベントにおける市民への環境啓発 チラシの配布									丸子市民生活課 市民サービス担当 (市民部門)
5-1	2	隣保館事業の開催	環境教育の推進	環境に対する意識の啓発を図る(地球温暖化を考慮し、無駄を最小限に抑える工夫)	隣保館事業参加者に対する環境啓発 ・エコイベントの計画・支援 ・省エネ等エコ生活への呼びかけ イベントを通じ市民への環境啓発		隣保館事業参加者に対する環境啓発	隣保館事業参加者に対する環境啓発	隣保館事業参加者に対する環境啓発	隣保館事業参加者に対する環境啓発	○	エコイベント：隣保館事業の開催時に参加者に対して、省エネ等エコへの呼びかけを行なった。	引き続き啓発に努める		丸子市民生活課 市民サービス担当 (丸子解放センター)
5-1	9	環境にやさしい学校づくり事業	環境にやさしい人を育む	学校での環境教育・環境学習活動を推進します	温室効果ガスの排出量を毎月把握する。	・光熱水費の削減量 ・学校ISO計画を全小中学校で作成し、実行する	児童生徒及び教職員の環境に対する意識啓発	児童生徒及び教職員の環境に対する意識啓発	児童生徒及び教職員の環境に対する意識啓発	児童生徒及び教職員の環境に対する意識啓発	◎	・全校が「学校ISO計画書」を作成し、取組んだ。 ・前期は猛暑の影響で、電気や水道の使用量が やや増加している学校もあったが、燃料費の高騰等もあり高熱水費、燃料費とも節減された。			丸子学校教育課
5-1	11	環境負荷低減の啓発事業	環境教育の推進	啓発活動を通じて環境保全の理解を深める。	・6月の環境月間に、展示コーナーに環境関係の本とパネル(環境保全協会から借用)を展示し、市民に啓発する。 ・2月頃本のリサイクル市を行い、除籍になった本の有効利用を図る。		啓発活動の実施	啓発活動の実施	啓発活動の実施	啓発活動の実施	◎	6月の環境月間にあわせ展示コーナーに環境関係の本約60冊とパネル3枚(環境保全協会から借用)を展示し、市民のみなさんに環境の啓発を図った。 11月27・28の2日間、本のリサイクル市を開催し4,730冊を準備した。そのうち、2日間で218人の方に1,339冊を持ち帰っていただいた。 また、2月27日は1日間本のリサイクル市を開催し3,628冊を準備した。そのうち、145人の方に1,110冊を持ち帰っていただき有効利用を図ることができた。			丸子金子図書館
5-1	13	自治センターだより	環境にやさしい人、地域を育む	住民の環境に関する意識の啓発を図る。	真田自治センターだよりを活用した環境啓発活動	啓発記事件数	啓発活動の実施	啓発活動の実施	啓発活動の実施	啓発活動の実施	◎	センターだよりで、市民へ冷房時の室温について啓発、マイバックの持参の呼びかけを年間を通しておこなった。(7月、9月、11月、1月発行)			真田地域振興課
5-1	20	各種講座	地域における環境保全活動の推進	地域住民の環境に関する意識の啓発を図る	・ふるさとの自然に親しみ、自然の豊かさや大切さを学ぶ教室 粘土に地域の土を混ぜて使い、焼き物をつくる教室	教室を実施することで、住民の環境に対する意識が高くなる。	おいしい料理教室 6回 わんぱく森林塾 6回 楽しく焼き物づくり 6回	おいしい料理教室 6回 わんぱく森林塾 6回 楽しく焼き物づくり 6回	おいしい料理教室 4回 わんぱく森林塾 10回 楽しく焼き物づくり 6回	意識啓発	◎	各講座共に、参加者数が多い。また親子での参加者も多い。自然環境への関心の高さであると思われる。	一人でも多くの子どもたちに、自然体験できるようにしたい。		真田地域教育事務所

環境基本計画基本目標			環境を思いやる人があふれるまち			一人ひとりが普段から環境のことを考え、環境のために行動ができる人々が集まっているまちを目指します。									
環 境 保 全 項 目			環境にやさしい人を育む			市民、事業者がそれぞれ環境を学ぶことができるよう、環境教育の推進を行うとともに、個々の環境に配慮した行動のリーダーシップをとれるような人材育成に努めます。									
環境基本計画	№	事務事業名	環境目的	環境目標	今年度の事業	効果を計る指標 (どの水準まで)	実績			H22目標	評価	平成22年度 総括	改善すべき課題	市民等からの意見	担当課
							H20	H21	H22						
5-1	22	視察研修の開催(男女共同参画)	ごみの減量化の推進	ごみの減量化及びリサイクルの推進	不燃物等の処理状況視察(小柳産業・ウェルサイクル)	資源循環型社会構築への参加者意識の向上を図る									武石市民生活課
5-1	22	市営・特目住宅の管理	環境負荷の低減(口座振替、入居者への環境啓発)	事務事業の効率化と環境啓発	全入居者通知の機会(年2回)に口座振替利用の奨励と環境啓発文を掲載	口座振替率 90.0%以上									武石市民生活課
5-1	28	自然観察に関する事業	自然観察を実施し環境保護の感性を育む。	自然に親しむ事業を開催する。、	武石地域の焼山沢から美ヶ原登山を通じた自然観察		環境保護の感性を育む	環境保護の感性を育む	環境保護の感性を育む	環境保護の感性を育む	◎		自然観察に関する事業もう一度機会を増やす。		武石地域教育事務所
5-1	29		省エネに努めるエコ対策	就労センター職員及び通所者の環境に対する意識を高める。	1. 通所者の皆さんに節電・節水の実施 2. アイドリングをさげ燃料の節約 3. 生ゴミの最利用 4. 施設内環境整備(花壇の植栽実施)	月平均の電気使用量2400キロ 軽油の月平均使用量246ℓ ガソリン月平均210ℓ 灯油月平均270ℓ	意識啓発	意識啓発	意識啓発	意識啓発	◎	全体的に節減ができた。	作業に使うウェス、洗剤等も無駄に使わないように心がける。		社会就労センター武石事業所

環境基本計画基本目標			環境を思いやる人があふれるまち			一人ひとりが普段から環境のことを考え、環境のために行動ができる人々が集まっているまちを目指します。									
環 境 保 全 項 目			環境にやさしい地域を育む			地域全体での積極的な環境保全行動を推進するための基盤づくりとして、市民のパートナーシップ、地域のパートナーシップ、市民・事業者のパートナーシップなどさまざまな地域社会の連携体制の整備を推進していきます。									
環境基本計画	№	事務事業名	環境目的	環境目標	今年度の事業	効果を計る指標 (どの水準まで)	実績			H22目標	評価	平成22年度 総括	改善すべき課題	市民等からの意見	担当課
							H20	H21	H22						
5-2	1	丸子地域自治センターだよりの発行	地域全体の環境保全に対する意識の高揚	上田市の環境目標「環境を思いやる人があるれるまち」を実現するため、自治センターだよりへ環境保全に関する情報を掲載し啓発を行う。	・丸子地域自治センターだよりの発行 ※環境保全に関する情報を掲載する。	・各号に環境情報を掲載 (計6回)	啓発活動の実施	啓発活動の実施	啓発活動の実施	啓発活動の実施	◎	・年度当初の予定どおり事業を進めることができた。 ・第18号～第20号を予定通り発行 ・環境情報・環境活動状況を掲載 ・環境への取り組みのロゴマークを「チームマイナス6%」から「チャレンジ25」に変更した。	・環境保護の呼びかけ内容として、市の環境基本計画の市民行動指針を掲載し、啓発活動を継続して行う。		丸子地域振興課
5-2	10	丸子文化会館施設管理運営事業	良好な環境と循環の仕組みに支えられたまち	各種事業時、車両乗り合わせによる参加の呼びかけを実施します。＜事業周知時における呼びかけ＞	住民環境啓発		啓発活動の実施	啓発活動の実施	啓発活動の実施	啓発活動の実施	◎	丸子文化会館セレスホールや小ホールで行った自主事業、社会教育事業の際に以下について行いました。 ①開催通知に乗り合わせの呼びかけを記載した。 ②館内に啓発文書を掲示し周知した。 ③開催時、口頭で周知した。	啓発対象者が異なるため、継続して実施する必要がある。		丸子社会教育課

環境基本計画	№	事務事業名	環境目的	環境目標	今年度の事業	効果を計る指標 (どの水準まで)	実績			H22目標	評価	平成22年度 総括	改善すべき課題	市民等からの意見	担当課
							H20	H21	H22						
独	2	自治会関連事務	環境にやさしいまちづくり	自治会定期送達における各課個別の催事告知は、極力広報うえだに掲載し、チラシをはじめ送達文書の削減を図るよう指導する。また、必要回覧数と配布数を常に把握、周知徹底することによる無駄の排除に努める。	1、月2回の庁内への周知徹底 2、配布数、回覧数の変更報告受付 3、配布数、回覧数の庁内周知徹底 4、追加配布文書等の精査の徹底	当初計画段階の削減達成水準を、最終段階まで維持する。	年度当初計画における「年間送達予定件数」 547件	年度当初計画における「年間送達予定件数」 584件	499件	年度当初計画における「年間送達予定件数」 481件	◎	月2回の周知徹底を図り実行した。配付数、回覧数の変更は随時受け対応した。変更した配付数、回覧数について庁内周知を図り徹底した。 平成22年度年間送達件数(実績) 499件	当初計画になく、緊急性も低いと判断される追加文書等の更なる削減。		まちづくり協働課
独	3	交流・文化施設整備事業	環境にやさしい施設づくり	環境負荷の少ない施設となる構造、設備、運営管理方法の検討	・整備用地の取得 ・基本設計 ・運営管理計画の策定に向けた検討	・基本設計、運営管理計画中間報告での、環境配慮策の充実度	検討委員会設置 中間報告	検討委員会最終報告 整備基本計画策定	運営管理計画中間報告、市民説明会、基本設計決定について予定どおり終了出来なかった。	・整備用地の取得 ・基本設計 ・運営管理計画の策定に向けた検討	△	年度当初の計画について、一部終了できない事業があった。			交流・文化施設建設準備室
独	4	産院移転に関する意見集約と駐車場の着工、本体設計	環境にやさしい施設整備	環境負荷の少ない施設となる構造、設備の導入の検討	・市民ワークショップ、地域医療関係者協議 ・産院基本設計・実施設計 ・立体駐車場実施設計 ・立体駐車場建設工事 ・関係機関調整 等	・実施設計終了時での環境配慮策の充実度	-	検討	検討・設計・工事・関係機関調整	検討・設計・工事・関係機関調整	◎	今年度予定の設計及び立体駐車場建設工事については終了した。また、23年度に予定していた本体建設工事については、前倒しで今年度から事業に着手している。 なお、太陽光発電(20kw)を設置予定。ほか照明も可能な箇所はLEDを使用予定。		市民化ワークショップにおいて、太陽光・熱利用など環境に配慮した施設としてほしい旨の意見あり。	産院建設準備室
独	5	農村環境改善センターの維持管理	施設利用者の安全と電気・水道・暖房等の使用量の抑制を図る	エコオフィスをうえだに基づき、地球環境の保全に取り組む	①事務室内温度 冬20℃・夏28℃に設定 ②センター利用者へのエコオフィスのPR ③水曜日の資源回収時の指導 ④コピー用紙の両面使用の推進	電気使用量50,000KWh、水道使用量400㎡、A重油使用量7,000ℓ、灯油使用量2,000ℓ、LPG使用量50㎡、コピー使用量30,000枚、可燃ごみ排出量300kg	電気使用量49,107KWh、水道使用量288㎡、A重油使用量4,300ℓ、灯油使用量1,270ℓ、LPG使用量53㎡、コピー使用量29,001枚、可燃ごみ排出量280kg	電気使用量50,090、水道使用量329㎡、A重油使用量7,000ℓ、灯油使用量1,457ℓ、LPG使用量50㎡、コピー使用量27,625枚、可燃ごみ排出量150kg	電気使用量52,549KWh、水道使用量323㎡、A重油使用量6,350ℓ、灯油使用量1,513ℓ、LPG使用量46㎡、コピー使用量25,622枚、可燃ごみ排出量50kg	電気使用量50,000KWh、水道使用量400㎡、A重油使用量7,000ℓ、灯油使用量2,000ℓ、LPG使用量50㎡、コピー使用量30,000枚、可燃ごみ排出量300kg	○	年度の目標をほぼ達成することができました。	現状の節約管理を今後も継続していく。		豊殿地域自治センター
独	10		コピー用紙の削減による環境配慮	本庁及び教育委員会のコピー用紙の削減		平成22年度 9,000,000枚	7,697,500枚	8,740,000枚	7,844,000枚	9,000,000枚	◎	前年度比 約86万枚減(約10%減)	・コピー用紙の削減を図っているが、市役所全体で業務量が増加しているため、コピー用紙の購入枚数が増加している。 ・文書担当者会議、庁内LANなどで削減について、周知を図っていく。		行政管理課
独	11	行財政改革大綱「第二期集中改革プラン」の推進	良質な市民サービスの提供と効果的、効率的な事務事業の推進	事務事業の効率化・省力化・迅速化を図り、行政経営への転換を目指す。	3年間で終了した第一期集中改革プランの総括を行い、未達成項目については、第二期集中改革プランとして引き続き取り組む。	◆前期:第一期集中改革プランの総括と第二期集中改革プランを策定する。 ◆後期:第二期集中改革プランの進捗管理を行う。	集中改革プランの策定	集中改革プランの策定	集中改革プランの策定	集中改革プランの策定	◎	平成22年11月に第二期集中改革プランを策定し、市民へ公表し、改革に向けた取組みを開始した。また、新年度早々に担当各課の協力を得て、進捗状況の取りまとめと、市民への公表を実施する。			行政改革推進室
独	13	電子申請の利用拡大	エコオフィスの推進	市民からの申請業務及び内部業務での利用拡大	各課業務調査の実施及び啓発	電子申請業務数 各申請の受付数	22業務 5,234件	20業務 3,428件	22業務 2,628件	電子申請業務数 27業務	○	平成20年度からアンケート調査などの業務が減ったため、メニュー数、受付件数が減少したが、県内でも上位の利用状況となった。	第三者監査において、具体的な達成目標値を設定するよう指摘があったことから、目標数値設定について検討する。		情報推進課

環境基本計画	№	事務事業名	環境目的	環境目標	今年度の事業	効果を計る指標 (どの水準まで)	実績			H22目標	評価	平成22年度 総括	改善すべき 課 題	市民等からの 意 見	担当課
							H20	H21	H22						
独	17	予算編成	①望ましい環境像の実現を支える行財政運営 ②エコオフィスの推進	環境に配慮しつつ、効率的な行政経営を目指した予算編成	①選択と集中による効率的・効果的な行政経営を目指した予算編成 ②環境基本計画(望ましい環境像)の実現に向けた施策への予算配分 ③予算編成事務の効率化	①効率的・効果的な行政経営 ②環境基本計画(望ましい環境像)の実現に向けた施策実施 ③持続的で安定的な財政基盤の確立 ④予算編成事務量の削減	予算編成	予算編成	予算編成 予算配分	予算編成 予算配分 事務の効率化	○	○平成22年度補正予算における環境施策 ・新エネルギー活用施設設置費補助金の増額(34,000千円) ・円高・デフレ対応のための緊急総合経済対策を活用した環境施策の実施(低公害化等)			財政課
独	18	庁舎管理	地球温暖化対策	地球を守る	・電気料の削減 ・燃料使用量の削減	前年度の使用量より削減	エネルギー使用量の削減	エネルギー使用量の削減	エネルギー使用量の削減	エネルギー使用量の削減	△	事務事業の増大や猛暑が続いたこと等により、灯油・軽油を除き使用量の削減を達成することができなかった。	冷暖房装置の設定温度の徹底を図るとともに、蛍光灯等 不用な電気の使用は避けるよう周知する。		公有財産管理課
独	19	税務業務の効率的運営	eLTAXサービスの拡充の取り組みとエコオフィスの推進	eLTAXサービスの拡充による業務の改善及び市民サービスの向上とエコオフィスの推進	eLTAXサービスの運用開始に向けた事業主、税理士への通知の送付や広報うえだ、市のホームページ・行政チャネル等を活用した市民への周知とサービスの開始	申告におけるeLTAXサービスの利用件数割合(申告の5%～10%)	業務改善	・eL-TAXによる 社会保険庁からの年金報告 データの電子化 ・給与支払報告書の電子データによる報告 事業所数 22件	データ受信率 ・個人住民税(給与支払報告書 8.5%、公的年金支払報告書 76.9%) ・法人市民税(電子申告 26.6%、固定資産税の償却資産 8.0%)	申告におけるeLTAXサービスの利用件数割合(申告の5%～10%)	◎	平成22年12月20日のeLTAXサービス開始に向け、市HP、「広報うえだ」へ掲載し市民及び事業者への周知を図りました。さらに個人・法人市民税及び償却資産申告に係る税理士、特別徴収義務者等へは「チラシ」により広報を行いました。その結果、利便性の向上と事務の効率化が図られました。	eLTAXサービスを推進するため、引き続きサービスの周知を図り、利用件数割合の向上を目指していく。		税務課
独	21	印刷物の見直し	印刷物の材質、数量、印刷内容、納品先の見直しによる環境負荷の低減	印刷物の発注に当たっては、常に仕様内容を検討する。	・各種印刷物の作成	・紙の材質(過剰な材質にしない) ・発注数量(概ね1年間の必要量を発注する) ・余白の面積(余白をできるだけ少なくし、紙面の有効活用を図る)	-	業務改善	業務改善	業務改善	○	・品質については利用者の利便性を考慮し現行どおりとした。必要数量については、在庫状況を確認し必要量の印刷に努めた。 ・余白利用については、利用者の見易さなどにも配慮し、有効利用に努めた。			市民課
独	29	介護保険、老人福祉事業全般にわたる事務改善の実施等	環境にやさしい介護保険、高齢福祉事業の実現	事務改善を図ることによって、高齢者の介護支援をスムーズにすすめ、元気なお年寄りをつくる。 介護施設の建設に際し、環境に配慮した取り組みを事業者を求める。	・(通年)事務改善を進める。 ・(下半期)介護保険施設の建設事業者に対し、環境配慮を求める。		事務改善	事務改善	事務改善	事務改善	◎	・内部監査を受け、具体的な取組事項について再認識できた。また通常業務を行うことが、結果として市全体への環境負荷軽減に役立つことが意識できた。 ・庁舎レイアウト変更に伴い、資源ごみ、古紙搬出などのルールを再確認できた。			高齢者介護課
独	32	相染閣の運営	市民の健康増進	市民の健康増進の場の提供	ハープを利用した健康教室、体操教室、生きがい作り教室の開催 毎月1日と16日を「ハープの日」とし、浴槽へのハープの活用によるリラックス効果の向上。	入館者数	-	-			◎				相染閣
独	33	国民健康保険、高齢者医療保険、国民年金の各事業全般にわたる事務事業	エコオフィスの徹底による環境への配慮	節電、コピー用紙、紙ごみの削減		22年度のコピー枚数目標 115,000枚(21年度実績値)									国保年金課

環境基本計画	№	事務事業名	環境目的	環境目標	今年度の事業	効果を計る指標 (どの水準まで)	実績			H22目標	評価	平成22年度 総括	改善すべき課題	市民等からの意見	担当課
							H20	H21	H22						
独	40	ホームページ、QRコードを使用した観光案内	地球環境の提言を考えた観光案内をします。	ホームページ、QRコードを積極的に使用した観光案内を行う。	パンフレット・ポスター全てにQRコードを入れる。	総合パンフレットには総合版、ダイジェスト版の2種類があり、その全てにQRコードを入れる。									観光課
独	58	財務会計事務の改善	環境に配慮した事務事業の改善	財務会計事務の向上による紙使用量の削減を図る。	①各種研修会の開催 ②適正帳票率の向上 ③支払伝票の削減	①適正帳票率・・・97.0% ②支払伝票件数・・・100,000件	財務会計研修会の開催 15回 適正帳票率 95.2% 支払審査件数 100,770件	財務会計研修会の開催 12回 適正帳票率 95.9% 支払審査件数 104,310件	財務会計研修会の開催 3回 適正帳票率 96.8% 支払審査件数 105,850件	適正帳票率 97.0% 支払伝票件数 100,000件	○				会計課
独	58	庁用汎用封筒に係る封筒印刷業務	4 環境情報システムの整備	57 環境関連情報を発信し、グリーン購入の推進と啓発を図る。	会計課印刷による市役所使用封筒に、「再生紙使用」と、「チームマイナス6%」のロゴを入れ、市職員の意識の啓発を図ると同時に、上田市の取り組みを広く市民にアピールする。	各種封筒等の必要印刷枚数を一定の指標とする。	環境啓発	環境啓発	環境啓発	環境啓発	◎	会計課印刷による市役所使用封筒に、「再生紙使用」と、「チームマイナス6%」のロゴを入れ、市職員の意識の啓発を図ると同時に、上田市の取り組みを広く市民にアピールしました。			会計課
独	65	給食の調理及び配送	廃棄物排出量の抑制	環境にやさしい給食づくりと配送業務(食品残渣の減少とBDF利用の配送車の運行)	①おいしい給食づくり ②配送車にBDFを利用 ③地産地消(地元産農産物の使用) ④残渣量の削減	①指導委員会における意見集約 ②BDFの利用量 ③地元産農産物の使用量 ④残渣量の調査・減量指導、畜産飼料への活用	BDF 954ℓ 食物残渣 20,327k 畜産飼料 12,621k	BDF 882ℓ 食物残渣 22,621k 畜産飼料 18,399k	BDF 1188ℓ 食物残渣 16235k 畜産飼料 19,091k	食品残渣調査の実施及びBDF利用の配送車の運行による環境保全の推進	○	①月1回の委員会が開催でき食育・給食の献立・残渣等について協議できた。 ②代替燃料(BDF)利用も4月26日より使用を開始、10月1日まで使用、化石燃料の抑制を図っている。 ③残渣量の調査をし、結果について各学校に知らせ、お互いに認識を新たに今後の減量に向けて努力することを認識。畜産飼料についても更に活用をしていく。今年度は学校側の努力もあり残渣量が大変少なかった。			第一学校給食センター
独	66	給食業務の環境への取り組み	食品廃棄物の抑制と再利用	環境にやさしく、安全・安心でおいしい給食づくり	①食品残渣減少の取り組み(残菜調査、学校訪問、児童・保護者へのPR) ②食品残渣の飼料としての利用 ③地元産農産物の使用 ④BDF燃料の使用	①②食品残渣の発生量 ③地元産農産物の使用量 ④BDF燃料の使用量	BDF 1206ℓ 残菜量 44907kg	BDF 882ℓ 残菜量 39226kg	BDF 864ℓ 残菜量 38153kg	食品残渣調査の実施及びBDF利用の配送車の運行による環境保全の推進	○	本年度の施設見学、試食会は例年通りの実施がありました。学校訪問はインフルエンザの影響がなく実施が出来ました。年間の残菜量は多少減っている。BDF燃料は使用車・供給量の関係があり、今後増加していく環境にはない。また、燃料の質が向上したのかリッターあたりの走行距離が延びた。地元産野菜の使用量は増加している物も在るが、反対に入荷が減少している物もある			第二学校給食センター
独	81	各種大会等パンフレットの作成	ごみ減量の促進	大会参加者等と協力して、ゴミの減量に努めます。	各種大会等	大会終了時のゴミ残量	ごみ減量の促進	ごみ減量の促進	ごみ減量の促進	大会参加者等と協力して、ごみの減量の推進	◎	各種大会資料、会議資料等を2in1や両面刷りにするなど削減に努めた。	資料等の内容を精査し、印刷数の削減に努める。		体育課
独	84	各種監査の実施	環境に配慮した事務事業の改善	監査の際に事務事業の改善を指導	・例月出納検査(毎月) ・定期監査(5月～10月) ・決算審査、財政健全化判断比率等の審査(4月～8月) ・行政監査(9月～1月) ・財政援助団体等監査(9月～1月) ・出先機関監査(9月～2月)など		事務事業の改善指導	事務事業の改善指導	事務事業の改善指導	事務事業の改善指導	◎	監査計画に従い、概ね各種監査を実施できた	・実施した監査結果が新年度の事務事業に反映できるようにすること		監査委員事務局

平成22年度 環境目的及び目標 達成状況一覧表(丸子・真田・武石地域 独自目標)

環境基本計画	№	事務事業名	環境目的	環境目標	今年度の事業	効果を計る指標 (どの水準まで)	実績			H22目標	評価	平成22年度 総括	改善すべき課題	市民等からの意見	担当課
							H20	H21	H22						
独	1	わがまち魅力アップ応援事業	地域全体の環境保全に対する意識の高揚	上田市の環境目標「自然・生き物・人が共生するまち」を実現するため、自治会や市民団体が行う環境保全活動等を支援・協力します。	わがまち魅力アップ応援事業の実施	実施団体目標 10団体				啓発活動の実施	◎	・実施団体の全てが予定どおり事業を完了することができた。 ・地域内でいろいろな取り組みが進んでいる。 ・事業内容の報告会(3/18)を開催し、団体間の意見交換等を行い、有意義な情報交換の場となった。	・応募団体を増加させることを目的として、広報活動を積極的に実施する。		丸子地域振興課
独	2	市営住宅の管理	環境負荷の低減(口座振替の推進)		・市営住宅の新規申込者に口座振替を依頼する。 利用の奨励	・口座振替率 99.00%以上									丸子市民生活課 市民サービス担当 (住宅部門)
独	11	移動図書館車の運行	地球資源を活かし地球にやさしいまち	あおぞら号の利用冊数の向上を図る。	移動図書館車の運行 (丸子・武石地域、年間約145日運行)	貸出冊数 21,000 冊	貸出冊数 23701	貸出冊数 22973	貸出冊数 21006	貸出冊数 21,000 冊	◎	・移動図書館車の運行 (丸子・武石地域 141日運行) ・貸出冊数 21,006冊 22年度は、武石小学校に導入されたエコールが軌道に乗った時点で、武石小学校は、移動図書館車の運行コースからはずすことになっています。(エコールが基本となるため。)従って22年度は、21年度より貸出数が減少しました。			丸子金子図書館
独	15	特定健診・特定保健指導受診率の向上	安全で健康に暮らせるまちづくり	特定健診・特定保健指導の受診率を増加させ、住民の健康維持を図ることで、産業廃棄物等(医療廃棄物)の削減につなげる。	1 特定健診受診率と保健指導実施率の向上	1 特定健診受診率 49% 2 特定保健指導実施率 43%	住民の健康維持を図る 特定健診受診率 33.77% 特定保健指導実施率 29.13%	住民の健康維持を図る	住民の健康維持を図る 特定健診受診率 30.0% 特定保健指導実施率 51.8%	住民の健康維持を図る	△	健康推進委員に対し、受診率アップへの協力を呼びかけた。 特定保健指導利用者の利用中断を防ぎ、実施率を下げないようにしたい。	特定健診受診率の向上 医療機関受診者の検査情報を得て、特定健診受診と同等にするシステムを構築し受診率アップに結びつける。		真田健康福祉課
独	16	ごみ減量化事業	イベント開催時及び公園等利用時に発生するごみの減量	イベント参加者等と協力してごみの減量を図り、また公園等利用者への環境啓発活動を行います。	イベント時及び公園等へ環境啓発看板等の設置	イベント終了時のごみの残量	啓発活動の実施	啓発活動の実施	啓発活動の実施	啓発活動の実施	○	イベントの主催者へごみ減量、持ち帰りの依頼を行うとともに、イベント開催時に合わせ環境啓発を行った。中止されたイベントもあり、啓発活動は縮小。			真田産業観光課(観光商工係)
独	21	再生紙を使用した地域自治センターだよりの発行	再生紙の活用	再生紙の活用	①地域自治センターだよりに再生紙を使用する。	①使用の有無									武石地域振興課
独	23		ごみ、コピー用紙、光熱水量の削減等による環境配慮	ごみ、コピー用紙、光熱水量の削減		22年度 コピー枚数 40000枚 電気使用量 28950kwh 水道使用量 500㎡ 灯油使用量 1330ℓ		コピー枚数 42112枚 電気使用量 30475kwh 水道使用量 530㎡ 灯油使用量 1484ℓ	コピー枚数 24872枚 電気使用量 32849kwh 水道使用量 510㎡ 灯油使用量 2702ℓ	コピー枚数 40000枚 電気使用量 28950kwh 水道使用量 500㎡ 灯油使用量 1330ℓ	○				武石健康福祉課
独	27		ゴミ、コピー用紙、光熱水量の削減等による環境配慮	ゴミ、コピー用紙、光熱水量の削減		22年度 コピー枚数 11000枚 電気使用量 30000kwh 水道使用量 500㎡ 灯油使用量 3300ℓ		コピー枚数 11359枚 電気使用量 30475kwh 水道使用量 529㎡ 灯油使用量 3500ℓ	コピー枚数 10,462枚 電気使用量 34,849kwh 水道使用量 509ℓ 灯油使用量 3,805ℓ	コピー枚数 11000枚 電気使用量 30000kwh 水道使用量 500㎡ 灯油使用量 3300ℓ	△	電気、灯油使用料の節減			武石診療所